

# 福岡大学

学園通信

人と夢を紡ぐ  
コミュニケーションマガジン

January, 2013

No. 40

かける

あきらめずに、ぶれずに、真つすぐに。  
日々を懸命に疾駆して、その先の未来へ。

グループ学習室 L42-L44  
Group Study Room

研究用個室 401-404  
Study Room  
414-424

FUKUOKA UNIVERSITY

# かける

スタートは、夢を探ること、見つけること。それを叶えるまでは、決してあきらめないこと。大学生活とは、夢を見つけそれにすべてを「かける」、夢へ向かって真っすぐに「かける」、そんな情熱の足し算なのかもしれない。未来はきつと、充実した悔いのない「今」が創る。

**建学の精神**  
思想堅実・程健中正・質実剛健・積極進取

**「教育研究の理念」**  
「人材教育」と「人間教育」の共存  
「学部教育」と「総合教育」の共存  
「地域性」と「国際性」の共存

## 福岡大学の三つのポリシー

福岡大学は、「建学の精神」に基づいた全人教育を目標として、「教育研究の理念」に掲げる三つの共存をはかることに努め、真理と自由を追求し、自発的で創造性豊かな人間を育成し、社会の発展に寄与することを使命としています。地域に密着し、地域と融合した総合大学として、コミュニケーションを大切にし、社会から信頼される人材を育成します。

- アドミッションポリシー**
- 本学の「建学の精神」を理解した、次のような人々を広く国内外から受け入れます。
1. 考え方がしっかりしており独断や偏見にとらわれない生き方を求める人
  2. 温和で包容力がありバランス感覚に優れた能力を身につけたい人
  3. 誠実で責任感が強く何事にも届しない人生をめざす人
  4. 新しいこと、困難なことに自ら進んで取り組んで行こうとする人

- カリキュラムポリシー**
- 本学の「教育研究の理念」に基づき、すべての学生に提供する「共通教育科目」と、各学部学科に設置する「専門教育科目」の二つを大きな柱とし、それぞれの学部学科の教育目標にあわせたカリキュラムを編成します。また、正課外教育においても、充実した各種教育プログラムを展開し、全教職員で本学学生の人的成長を支援し、全人教育を実現します。
1. 全学に提供する共通教育科目をとおして、専門性にとらわれない幅広い視野と豊かな人間性を持つ人材を育成
  2. 各学部学科が設置する専門教育科目をとおして、専門的な知識や技能を高め、社会の進歩や変革に応え得る深い学識を有する人材を育成
  3. 様々な教育プログラムをとおして、国際性と地域性を兼ね備えた21世紀に通用する人材を育成

- ディプロマポリシー**
- 本学の教育課程においては、厳格な成績評価を行い、所定の単位を修め、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与します。
1. 修得した知識・技能・態度により、自らが発見した新たな課題を解決する力
  2. 職業生活、社会生活に必要な知的活動を支えるコミュニケーション能力や論理的思考力
  3. 自律しながらも他者と協調して行動でき、社会の一員として社会の発展に寄与できる力

## 年頭の辞

本学は、教育・研究・医療の3つの高度機能を果たすことを普遍的使命とし、責任ある教育、探究心と地道な努力による研究、高い質を備えた医療に全力を傾注しています。また、新たに地域社会の中で地域連携機能を果たすことも重要な社会的責務としています。これからも本学は、「建学の精神」と「教育研究の理念」に基づく全人教育を通して、国と地域、国際社会を支える有為な人材を輩出していきます。本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

福岡大学長 衛藤卓也

## No.40 January, 2013 CONTENTS

福岡大学 学園通信 January, 2013 No. 40

「福岡大学学園通信」は、人と夢を紡ぐ在学生のためのコミュニケーション誌。そして福岡大学の現状や学生の活躍、医療活動などを掲載する広報誌です。在学生だけでなく、保護者の皆さま、地域の皆さまにも広くご覧いただいています。

「かける」特集	3
夢に向かってかける 「福岡大学で学ぶということ」	3
時代を駆ける先輩たち	13
株式会社安川電機 生産業務本部 調達部長 樋口充章さん	
充実 Campus Life	17
理学部物理科学科 3年次生 小森就統さん	
先生の研究	19
弟子丸 伸伸 理学部化学科 准教授 DNAの情報を書き換える、 生体必須のメカニズムに迫る	
講義ライブ 90分	21
商学部専門教育科目「情報社会論」 刻々と変動する情報社会を生きる知識と、 判断力を養う	
情熱の証	23
●学術文化部会 マンドリンクラブ ●体育部会 ハンドボール部	
就活メモリー	25
●IDC大塚真 福岡ショールーム 大森章樹さん ●株式会社九電工 森田 健太郎さん	
ヒポクラテスの系譜	27
心臓血管外科診療部長 田代忠教授 医学部	
「ラボポンプ手術」の重分け そして、これからも牽引者として	
福岡大学の医療展開 NEWS	29
ハートのサプリメント	31
階段の踊り場で立ちすくむような気持ち。 でもそれが新しいフロアへの始まりなのです。	
FUKUDIARY	33
2012年度第8回学生チャレンジプロジェクト	
Collaboration F	35
「コラボレーション」いよいよだかむつてー	
ななくま通信	37
第2回福大生サポート募金 寄付者ご芳名一覽	42



# 夢 に向かって かける

福岡大学で学ぶということ

特集 CONTENTS

- 05 福岡大学で学ぶということⅠ
- 06 入学センタースタッフからメッセージ
- 07 だから私は福岡大学を選んだ
- 08 福岡大学で学ぶということⅡ
- 09 就職・進路支援センターのサポート
- 10 現場を知る貴重な体験、インターンシップ
- 11 就職・進路支援センター、「ここがおすすめ」
- 11 就職内定者サクセスインタビュー
- 12 今を支える、福大での充実した日々



七隈の広大なキャンパスには、学生の可能性を広げる無数のチャンスがある。入学―卒業、そして就職。どれも大きなキープointだが何よりも大切なのは、充実したキャンパスライフ。つまりここで学ぶということ。

目標を定め、夢に向かってかけていくということ。入学から卒業までの充実した日々、その積み重ねがそれぞれの将来への道を確かなものにし、夢を大きく実らせる。

このキャンパスで培った精神力や多彩な能力が社会に出たときに良きリーダーシップとして発揮される。さあ、自分の持つ可能性を開花させ、夢へ全力で「かけて」いこう。

自分が欲し動き出せば、夢は必ず叶う。



夢へと駆ける  
第一歩を踏み出そう

本学は九州エリアで最も多い学生数を誇り、2万人がワンキャンパスで学んでいます。学部学科やクラブでは、自分と同じような夢を持った人や目標に向かっていく人に出会えるかもしれません。仲間と切磋琢磨しながら高め合える刺激的な環境は、本学ならではのものです。また、9学部31学科を有する本学では、自分とは違ったさまざまな個性や考えを持った学生と触れ合えることも大きな魅力です。授業はもちろん、クラブや学園祭、就職活動などを通して新しい世界を知るチャンスにあふれています。

もし今の時点で夢や目標に迷っているも、本学には可能性を広げる多くの機会があります。自分が興味を持つ分野を見つけ、夢へとつなげていくことができます。そして心強いことのひとつが、23万5,000人以上の卒業生が社会に羽ばたいていること。彼らがお手本となって、将来なりたい人物像を示してくれることもあるでしょう。

ぜひ大いなる夢や目標を持ち、前へ、上へと駆けていく第一歩として福岡大学で学び、自分を大きく高めてください。そして授業はもちろん、課外活動や留学、資格取得のための勉強など、自分の殻を破って、積極的にさまざまなことにチャレンジしてください。意志を持って踏み出したその一歩が、皆さんの夢を叶えてくれる原動力になるはずです。

入学センター長

居城 克治 教授

商学部



大学とは能動的に選ぶ  
学びを究めていく場所

大学は小・中・高と続いてきた12年間の教育を終え、さらに学びを究めたい人が進む高等教育機関です。高校生までは学年や学期が変わるたびに新しい時間割が与えられ、国語や英語など習得すべき科目があり、内容が概ね決められていたはずですが、大学というステージに上がると学び方が一変し、受動的ではなく、能動的に学ぶことが求められます。例えば、自分が受ける授業の時間割はすべて自分で決めることとなります。大学での4年間または6年間は、興味を持った分野の勉強や研究に集中し、人類の歴史がはぐくんできた「知の継承」、そして次代へつなげる「知の創造」に打ち込むことができる幸せな時間とも言えます。どう学ぶかは自分次第なのです。

では、分厚いシラバス（授業の概要などを記載したもの）に留意された教えられるほどの授業や正課外の学びの中から、何を選びとることが大学生にとって有意義なのでしょう。

進みたい方向を定める  
学ぶべきものが見えてくる

受験生の皆さんはもちろん、大学1年次生にとっても大学卒業は遠い先のことだと感じるかもしれません。しかし、大学や大学院での学びを修了すると、社会に巣立ちます。それはすなわち、何かのプロフェッショナルになるといえることです。例えば野球選手を目指すなら、野球のルールを学び、バッティングの練習をし、守備力を高める工夫をするでしょう。それと同様に、皆さんが将来進みたい業界や仕事によって、必要な知識や学びは異なります。そして大学生活は、社会で求められる基礎的な素養や知識を身に付けるための準備期間だと考えてください。そうとらえると大学で過ごす時間は思った以上に短く感じるかもしれません。

大学での学びを有意義なものにするためには、なるべく早期から「どんな職業に就きたいか」という将来像をイメージしておくことをお勧めします。夢や目標を叶えるために必要な学びを積み重ねることで、皆さんは社会から必要とされる人材へと成長していけるはずです。

●●● 福岡大学入学を目指す皆さんへ ●●●

## 入学センタースタッフからメッセージ

### 大学受験は、夢を叶えるための入口

入学センターでは、広報活動の一環として各地で進学説明会を実施しています。参加者は受験生だけでなく、高校1・2年生が来ることも多く、これから進路を検討する人、迷っている人、すでに決めている人とさまざま。参加者が何を知りたいか尋ねながら、大学紹介や入試の説明をします。本学の入試制度は多岐にわたっており、実施学部(学科)は制度によって異なります。それぞれの特長を知って、自分に合った制度を選んでください。

大学受験は夢を叶えるための入口。入試で合格することがゴールではありません。受験に必要な科目はもちろん、そうでない科目もしっかり勉強しておくこと、そして受験までの過程や努力は、将来必ず役立ちます。その経験を踏まえ、福岡大学で頑張ってください。



ささいな疑問点も気軽に質問してほしいと話す入学センターの上田清貴さん(左)と八尋直哉さん(右)。



進学説明会では高校生や保護者を対象に、入試制度や大学生活を分かりやすく説明する。

『福岡大学学園通信』で  
福大の魅力をチェックしよう!

充実したキャンパスライフを送りたい人は  
P.17「充実Campus Life」へ

ライブ感溢れる大学の授業を垣間みたい人は  
P.21「講義ライブ90分」へ

福岡大学で学ぶということ  
仲間と切磋琢磨し、共に高め合える環境で  
さまざまな機会を生かして成長しよう



就職・進路支援センター長

片岡 泰文 教授

薬学部薬学科



企業や社会から福岡大学の学生に期待されている要素は幾つかあります。例えば、雑草のようなたくましさや、企業だけでなく地域をも引っ張っていくようなリーダーシップなどが挙げられます。福岡大学を卒業していった先輩たちの中には管理職になる人やベンチャー企業を立ち上げ、アグレッシブに九州の経済界をリードしている人も少なくありません。起業家というのは夢を形にする達人です。起業家を多数輩出してきた福岡大学には、荒ぶる魂を鼓舞して、時代が求めるキーワードである「タフさ」が育つ環境が整っているのです。

近年、不景気や就職氷河期というメディアの言葉の影響もあってか、早い段階で自分の進路や希望する業界を絞る学生の皆さんも少なくありません。もちろん夢を見つけて、真っすぐに向かっているのはとても良いことです。就職活動の時期は幅広い業界や職種を見て、自分の可能性を広げて考えることも将来のために有効ではないでしょうか。

学生時代に培ったタフさを社会で発揮できるリーダーシップに

知識と教養という学びで養うものを武器に

大学は、専門分野に特化した「専門職能」と社会人に必要なモラルや知識などの「一般教養」の二つの学びを深める時間です。例えばグローバルな働き方を目指すなら、専門職能とともに英語を学ぶでしょう。読み書きだけでなく、英会話力やTOEIC®のスコアも必要になってきます。しかし、英語はあくまで一つの道具です。その道具を使って何を伝えるかという人間の内面を深めてくれるのが教養です。教養は、社会に出ていく上でその人がまとう鎧のようなもの、赤い鎧が好きな人もいれば、黒い鎧が好きな人もいます。その鎧が、まとう人の個性になります。大学時代にさまざまな個性の人と出会うことで自分の持ち味を知り、オープンマインドに異文化を受け入れる寛容さが身に付きます。

福岡大学ならではの経験や知の財産をエネルギーにして夢へと駆けてください。福岡大学は就職支援の面からも皆さんの学生生活の充実をしっかりとサポートします。

「就職・進路支援センターが行う就職支援の充実・強化」とは？

個別相談

さまざまな就職や進路に関する相談にマンツーマンでアドバイス。求人斡旋・面接・マナー指導・履歴書・エントリーシート添削なども実施。

就職活動支援プログラム

学部3年次生(大学院1年次生)ならびに学部4年次生(大学院2年次生)に対して、時期に応じてさまざまな就職活動支援プログラムを実施。

学内企業セミナー

学内において、福大生を積極的に採用したい企業によるセミナーを随時開催。

低学年次向け就職意識涵養プログラム

就活コンピテンシー診断テスト(行動特性を測る)やキャリア形成支援講座などの実施。

知識と教養を磨き、時代を力強く生き抜く  
タフさを身に付けよう

福岡大学で学ぶということII

だから私は福岡大学を選んだ

入学を望んだきっかけ、入学後のキャンパスライフ。  
1,2年次を経て振り返る、福岡大学での出会いや出来事。  
そして見つけた夢、確かな形になり始めた目標。  
在学生の二人が、この大学の魅力をリアルな言葉で伝えてくれました。

入学後の自分に確かなイメージを持って。大学では寮生活も楽しい。



工学部化学システム工学科  
1年次生  
出原 慎之介さん

出原さんは鹿児島県の公立高校出身。高校2年生から、工学部進学を明確に目指していたものの、どの大学にするかを決めかねていました。「国立大学と福岡大学、それぞれの工学部での学びを比較し本学工学部化学システム工学科に決めました。高校で履修できなかった物理を基本から学べることや、総合大学で幅広い知識を身に付けたいとあらためて思ったからです」と出原さん。自身の力を見極め、将来に向かいどう進むべきかを見直すことで、受験への意欲もさらに増したと話します。

また入学から一年が経とうとしている出原さんは、学業に加えて寮生活も学生生活を充実させる大きな理由だと後輩にアドバイスします。「寮での生活が自分を律してくれました。交友関係が広がるだけでなく、勉強を教え合い、そしてさまざまなことを語り合えるという環境もメリットだと思います。寮仲間の存在は本当に心強いです。数学、物理、化学のさらなる勉強に加え、今春からは一人暮らし、そしてアルバイトも始めたいと出原さん。新しい生活に意欲を燃やします。



大学直営の男子寮「自修寮」。「苦手の物理を寮仲間に入れてもらえるので助かっています」と出原さん。

福岡大学は個性の集まり。自分を高める新たな出会いが待っています。



法学部法律学科  
2年次生  
山下 彩未さん

「私は自宅がすぐ近くで、福岡大学は幼い頃から身近な存在でした。そして母が卒業生という事もあり志望校は自然と福大になりました」と話す山下さん。法学部を選んだ理由は「同じ法学部だった母の助言が大きかったです。将来のビジョンが定まらない私に『どの分野に進んでも法の知識は役立つ』と背中を押してくれました」と振り返ります。

入学後は学業と共に放送研究部の活動にのめり込んでいった山下さん。2年次には「第54代アナウンスルーム長」に就任し、部内の一部門の40人をまとめる立場になりました。「人前での立ち居振る舞いや話し方、コミュニケーション力など放送研究部での経験は社会に出た時に重要な要素ばかり。卒業後はリポーターやアナウンサーなど『声を使った仕事』に就きたいと思っています。そのために残りの学生生活で語学にも力を入れた」と目を輝かせます。「個性の集まる福大では自分を高める出会いが待っています。入学前も後も前向きな姿勢を忘れずに頑張りましょう」と受験生を励まします。



週4日放送研究部の活動に励む山下さん(右)。「人前でも動じない度胸が付きまして」と話す。

サークル活動に打ち込みたい人は  
P.23「情熱の証」へ

前向きな気持ちで夢に挑みたい人は  
P.31「ハートのサプリメント」へ

## センターの就職サポート

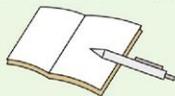
### 個別企業セミナー、合同企業セミナー

1月後半から学内において個別企業セミナーや合同企業セミナーを開催しています。福大生のためだけに企業の人事採用担当者が説明をしてくれる貴重な機会です。これまでに多くの福大生を採用した実績を持つ企業や福大生をぜひ採用したいという企業ばかりです。



### キャリアカウンセリング

「自分の適性に合った仕事を選べるだろうか」という不安や、「やりたい仕事が見つからない」という悩みを持つ学生に対して、望ましい職業選択やキャリア開発を支援するプロセスを体系的に学んだ経験豊かなキャリアカウンセラーが相談に応じます。



### 就職サブゼミナール

各学部や学科はもちろん、ゼミや部活・サークル単位でセンターに要請すれば、スタッフが出向いてそれぞれの要望に応じて話をしています。内容は、その時に聴講するメンバーやタイミングに合わせて、細やかに要望に応じています。



### 学生アドバイザー

就職活動を終え、内定を得た学生がアドバイザーとして、これから就職活動に臨む後輩にアドバイスをします。10月の「就職なんでも相談会」では一度に10人以上の内定者の体験談を聴くことができます。また、11～12月は就職・進路支援センターのフロアにて日替わりで3人のアドバイザーが登場し、個別相談に応じます。



## 就職・進路支援センターのサポート

学生の未来を支える就職・進路支援センター。  
キャンパスから次のステージへ翔る学生一人一人へ  
センターが行っているサポート体制をスタッフが紹介します。



「小さな不安や悩み事でも気軽に」と、就職・進路支援センターの森美智雄室長(中)、假野陽介さん(右)、原野優樹さん(左)。

### 入学した時から行う 職業観を養うための キャリア形成支援と就職支援

就職・進路支援センターは、皆さんの大学生活を「自立して豊かな人生を送るための進路選択の準備期間」と考えています。就職・進路支援センターでは、学生の皆さんが入学した時から卒業後の人生設計やキャリアデザインについて考えることを習慣付けるよう、さまざまな就職支援プログラムを用意しています。その一つとしてセンターでは1年次生(医学部を除く全学部)に「就活コンピテンシー診断テスト」を2010年度から実施しています。また、1・2年次生を対象に「キャリア形成支援講座」を実施しています。この講座は、「自分を知り、そして「働く」ということについて考える」をテーマとし、グループワークを中心とします。1年次生では企業に内定した4年次生を、2年次生では

は実社会で活躍している若手の卒業生に参加してもらい、就職活動や仕事の話を通じて就職について考えていきます。今年度の受講生は、自分自身の将来について真剣に考え、有意義な大学生活を送るためのヒントをつかんでいました。スタッフの原野優樹さんは「就職活動では、今まで何をしていたかが問われます。自信を持って答えられる実績を作るためには1年次から自分で考え、行動することが大事」と助言します。

学部3年次生(大学院1年次生)ならびに学部4年次生(大学院2年次生)に対しては、それぞれの時期に応じて就職活動プログラムを実施しています。就職ガイダンスや自己分析講座、模擬面接、学内企業セミナーなど、さまざまなプログラムを用意しています。ほかにも独自の就職支援ツールとして「福岡大学就職情報システム」があり、企業情報、福大生への求人情報、卒業生情報などをデータベース化し、学生は必要な情報をより効率良く入手することができます。

### 企業は福大生に何を求めているのか

ところで、企業は福大生のどんなところに着目し、採用意欲を高めているのでしょうか。スタッフの假野陽介さんはこう分析します。「9学部31学科の学生がワNKキャンパスに集う本学では、さまざまな人と交流する機会が多いため、順応性が高くバランス感覚に優れた学生が育ちやすいようです。企業の方からは「将来当社の管理職になれるような人材が目立

つ」という評価をいただくことが多いです。課外活動などでも文理系を超えた活動を通して、自ずとコミュニケーション能力も高まっていくようです。森美智雄室長は「建学の精神にある『積極進取』という言葉にも表れていますが、福大生はバイタリティがあり、何事にもチャレンジする学生が多い」とも言います。また多くの卒業生がさまざまな業界で活躍しており、元気で明るく、チャレンジ精神を持っているので企業の評価が高いようです。

### 夢へと翔る 学生を全力で後押し

センターでは、窓口相談にも力を注いでおり、センタースタッフ、企業の人事採用経験者である「進路相談員」「就職アドバイザー」「産業カウンセラー」の資格を有する「キャリアカウンセラー」が「三層」体の支援体制を整えています。また就職活動を終え、内定を得た学生が「学生アドバイザー」となり、自らの就職活動体験を基に就職活動全般についてアドバイスをします。

就職・進路支援センターは、学生と社会をつなぐ役割を持ち、社会人として必要な素養を身に付けるための実践的トレーニングの場です。進路についての不安など、どんなことでも気軽に相談しにきてください。

「福岡大学学園通信」で就職・進路に関する情報をチェックしよう!

## 現場を知る貴重な体験、インターンシップ

— 就職への意欲を高める、企業現場での実習 —

「今の自分は何ができて何ができないか」を再確認する「見つめ直し」の機会です。

参加先:株式会社翔業

経済学部経済学科3年次生  
飯 亮さん



将来どんな仕事に就きたいのか定まらなかった飯さん。就職・進路支援センターの掲示板がきっかけで、インターンシップに参加しました。数あるインターンシップ先からこの会社を選んだのは「薬局でアルバイトをしており、医薬品関係に興味があったからです」と話します。5日間のインターンシップで最も印象に残っている課題は「営業同行」でした。「すぐに商談に入るのではなく、時間をかけて信頼関係を築いていく重要性を学びました。ビジネスマナーはもちろん、現場の生の空気を肌で感じられることがインターンシップのメリットだと思います」と成果を語ってくれた飯さん。確かな手応えを感じているようです。

インターンシップへの参加で「就活を楽しもう」という前向きな気持ちになれました。

参加先:福岡トヨタ自動車株式会社

商学部商学科3年次生  
石橋 夏織さん



石橋さんは自己分析や自己アピールの仕方を学び、成果報告までを行うインターンシップのための専門教育科目「インターンシップ」の一環として参加。「各社の研修内容を比べ、より自分のためになると思った企業を選びました。グループディスカッションやマナー研修など、社会人基礎力を磨くカリキュラムが充実していたことが決め手です」と話します。社員の方と同じように接客し新車の納車にも立ち会った店舗研修をはじめ、社会人への意識を高めた12日間。「体験を通じてモチベーションが上がり「就活自体を楽しもう」という前向きな気持ちになりました」と石橋さんは新たな意欲を燃やしています。

社会で活躍する先輩たちに  
学びたい人は  
P.13「時代を駆ける先輩たち」へ

就職活動に関する実体験を  
知りたい人は  
P.25「就活メモリー」へ



## 今を支える、福大での充実した日々

このキャンパスで充実した日々を過ごし、仲間との絆を深め、社会で活躍する先輩たち。福大生だったからこそ得られたもの、今に生かされているものについて、お話を伺いました。

### 自分とは違う個性を受け入れて 成長と未来を手に入れよう。



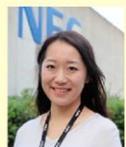
富士火災海上保険株式会社  
九州本部 北九州支店 PA営業課  
北川 佳佑さん  
(2010年 経済学部経済学科 卒業)

現在、営業社員を取りまとめ、より営業技術のレベルが上がるように支援する仕事をしています。父より年上の社員もいる中で、得意分野や性格が異なる集団を束ねていくのは容易ではありません。今の仕事をする上で役立っていると感じることは、大学時代に打ち込んだ交響楽団活動の経験です。さまざまな個性を持ったメンバーが一つの方向を目指して力を合わせていく、社会の縮図のワンシーンのようなオーケストラでは、周囲がどう考えているのかを知り、受け入れる姿勢がととても重要でした。福岡大学で身に付けた柔軟性が今も私を支えています。



数多くの保険商品を理解し、お客様に真摯に向き合うことが大切。

### たくさんのチャンスが用意されています。後はそれをつかむだけ。



九州日本電気ソフトウェア株式会社  
NECソフトウェア九州ソリューション基盤事業部システムソフトウェアグループ  
林 美由紀さん  
(2010年 工学部電子情報工学科 卒業)  
(2012年 九州工業大学大学院生命体工学研究科 修了)

企業などで使う業務システムに必要なソフトウェア製品をつくる開発チームにいます。私は1年次生の頃から、アルバム委員会やゼミ活動に参加していました。特にアルバム委員会では、「納期」の大切さや社会の方々との打ち合わせ、出張など、学生の間から社会経験を積むことができました。正課外でも積極的に自分から動くことで自分を成長させてくれる経験や人脈と出会うチャンスは増えます。自分の夢や目標に向かってチャレンジできる福岡大学に通えたことを誇りに思います。



入社後のベトナムでの研修中は会話も資料も英語漬け。持ち前の積極性がチームをまとめた。

## 各種資料



### 先輩が残してくれた就職活動の各種資料は宝の山です

就職試験対策の書籍に加え、センターでしか閲覧できない貴重な資料も活用。先輩たちが残してくれた「入社試験報告書」や「就職活動体験記」には、各企業がいつどんな面接を行い、何を質問したかなどの情報があります。谷山さんは「面接の直前には必ずチェックした」とか。

### 社会人の視点で助言をくれる 頼れる存在もいます

企業側の採用担当者の視点で助言をくれる進路相談員や就職アドバイザー、キャリアカウンセラーへの相談は事前に予約を。「個室で本番さながらの模擬面接指導を受けることで改善点が見え、自信を持って本番に臨めます」と谷山さん。



## 模擬面接



先輩や卒業生のアドバイスも頼りにしていました。センターが紹介してくれる先輩に会うのもお勧めです。

## センターを活用する者は 内定を制す

「就活に必要な情報やツールは全部ここでそろるので活用しない手はありません」と、センターを案内してくれる坂井将弥さん(右)と谷山香緒里さん(左)。情報が多過ぎて、活用法が分からないときはスタッフに尋ねると「そんな使い方もあるのか」と目から鱗が落ちるような発見があるはずだ。

## センター入り口



自宅のパソコンでも就職活動はできますが、福大生用の資料がそろったセンターは格段に使いやすいですよ。



## パソコンコーナー



### 8台のパソコンを準備 広いデスクが快適です

センターには8台の端末があります。授業で使われることではないので狙い目。坂井さんは「作業デスクが広いのでネットで調べてノートにメモするという使い方も、資料の出力やコピーもできるので便利です」と言います。

## 相談窓口



### センタースタッフは 就活の心強い良き相談者

センタースタッフへの相談は予約不要。「履歴書やエントリーシートのアドバイスだけでなく、本学が開発した「就職情報システム」の使い方についても教えてもらいました。就活に行き詰まったときは話し相手になってもらいました」と坂井さん。

# 就職・進路支援センター

ここがおすすめ!

福大生の就活を応援するためのすべてが集まる就職・進路支援センター。ここで活用すべき三種の神器は、就職活動をした先輩が残してくれた「資料」、今や就活に欠かせないパソコンや就職情報システムなどの「IT支援」、そして心強い味方として就活を全力でサポートしてくれる「人」です。目指していた企業に見事内定した二人が紹介します。

## 就職内定者サクセスインタビュー

スタッフの皆さんに何でも気軽に相談できる居心地の良い場所です。

### 株式会社西日本シティ銀行内定

法学部経営法学科4年次生 坂井 将弥さん

西日本シティ銀行に内定した坂井さんは、就職・進路支援センターをいい意味での就活の「息抜き」の場として利用していたと言います。「自由に使えるパソコンも目当てでセンターを訪れたのがきっかけですが、スタッフの方が学生目線で親身に相談に乗ってくたさるなど、居心地が良くつい長い居居していました」と坂井さんは笑います。センターが実施する「集団面接」グループディスカッションなどのセミナーにも積極的に参加し、同銀行のほか数社から内定を、いたく大きな成果を挙げました。「内定には情報と準備が大切。感謝を忘れず、センターのスタッフの方々をはじめ、先輩や仲間の力を借りて自分の人生に対して誠実になっただけです」と後輩にアドバイスをしています。



センターと就活について語る谷山さん(左)と坂井さん(右)

### 「入社試験報告書」など先輩が書かれた後輩への助言に励まされて 難関を突破できました。

#### ●りそなグループ内定

経済学部産業経済学科4年次生 谷山 香緒里さん  
「りそなグループ内定という目標を達成できたのは先輩方のおかげです。感謝する谷山さん。就職・進路支援センターでの学生アドバイザーによる助言や、閲覧できる「入社試験報告書」に励まされたと言います。「入社試験報告書は、企業情報だけでなく面接内容、心構えなど先輩方の生の声が書いてあり参考になります。私は面接前に必ず読んで気持ちを奮い立たせていました」と就職活動中を振り返りました。さらには後輩へのアドバイスを一言「就職活動は皆同じスタートライン。就職・進路支援センターは個人集団の面接対策やエントリーシート添削会などのセミナーも充実しています。まずは自己PRを磨くことから始めるといいと思います。」





# 充実 Campus Life

自分だけのキャンパスライフがある。ここならきっと見つけられる。  
例えば、夢を追いかけて空を翔る小森さんのように。

小さい頃から憧れ続けてきた  
空を翔る夢に向かって、テイクオフ



理学部物理科学科 3年次生  
小森 就航さん

夢のために苦手分野も克服し  
週末は仲間とグライダーイング  
夢を叶える準備を整えて

屈託のない笑顔が印象的な小森さんの心をとらえて離さないもの、それは飛行機。きっかけは小学生の頃、家族旅行で乗った旅客機に、胸の高鳴りが止まらないほど興奮したそう。その後、両親にお願いして旅客機を見るために、空港に足掛け通いまして、「名前が『就航』と空にちなんでいることが背中を押したのかもありません。ほかの乗り物には一切興味がなく、僕にとっては飛行機だけが特別でした」と振り返ります。高校生の頃には将来、航空業界に就職したいと考え、空を飛ぶことにしました。物理の勉強にも力を入れました。

晴れて福岡大学に入学した数日後、学内を歩いていると、グライダーの機体が目に飛び込んできました。思わず立ち止まり、見入っていると「飛行機、好きですか?と声を掛けられ、薄かされるように航空部へ。その週末には部の車に乗って、久住へ向かっていったんです。教官の操縦するグライダーに同乗し、初めてグライダーング。エンジンが付いていないグライダー、空中で風を切る音がとても印象に残りました。海拔約2,000mの上空から見る景色は、今までに見たこともない

美しさ。思わず「何だこれは」と息を飲んだそうです。

目の目標は、2013年3月に埼玉県、妻沼空港で行われる第53回全日本学生グライダー競技大会に出場すること。この大会に出場するためには、自家用操縦士の免許が必要。小森さんは2年次の夏の約1か月間、フロリダに滞在し、ライセンスを取得しました。英語のテキストを何度も読み返し、外国人教官の指導を受け、筆記試験と実技をパス。滞在中は近くの空港の管制塔を見学させてもらおうという貴重な経験もしました。張り詰めた現場の緊張感を目の当たりにして、あらためて航空業界への就職を意識しなす。

アルバイトでは、家族と一緒に飛行機を飛ばすこともありますが、空を飛ぶという夢は、グライダーで実現したいです。

空と海とキャンパスを自在にダイビングする小森さん、これから人生の目標に向かって、テイクオフする日もすぐです。

時に強い逆風に吹かれ、荒波にもまれることもあるかもしれませんが、しっかりと持ち前の明るさで「就航」という名のように、その夢は叶えられるでしょう。



1 フロリダで免許を取得するための懸命に読み込んだ英語のハンドブックと飛行記録 2 努力の結晶「自家用操縦士」の免許 3 アメリカ人試験官との思い出の1枚 4 昼食は母親が作ってくれたお弁当。一番好きなのは卵焼き 5 自室の本棚には東野圭吾作品がずらり 6 部員オリジナルデザインの航空部ロゴ 7 最小限の計器で飛ぶグライダーでは、自分の感覚と経験が頼り

## PICK UP 専門教育科目 「物理科学研究Ⅱ」

### 山本 大輔 理学部物理科学科 准教授

これまでの経験に基づき、卒業論文を作成するために必要な実験・研究を、主体的に企画し実行する経験を積むことがこの授業の目的です。学生たちは自らの手で実験・研究を行うことで、卒業論文の作成に必要な力を養っていきます。

複数の実験テーマの中から興味のあるものを選んで実験を行います。遠心分離機などこれまで触れたこともない実験器具を扱うことがとても新鮮です。また、学生数人の班編成の中で、友人との仲が深まることも魅力です。



## PICK UP 専門教育科目 「神経生物学」

### 横張 文男 理学部地球圏科学科 教授

複雑さに違いがあるにせよ、すべての動物には神経系があります。人間の思考も動物・昆虫の本能的な行動も脳・神経系の働きです。授業では実験・研究の結果を紹介しながら神経系の仕組みを学んでいきます。

「高校生の頃は、暗記科目というイメージが強く苦手だった生物ですが、目や耳など身近な人体の機能を分かりやすく学べています。新しい発見の連続で、探究心がぐくまれます」と小森さん。



## ~空への夢に翔て~ 航空部



輪になって昼食タイム。他大学の友人との交流も会合の楽しみ。 会合で昼食を共にしながら、互いの夢を語り合う仲間たち。



学生課でグライダーの損害保険書類を提出する小森さん。部員が安心して飛行するための大事な手続き。 福岡大学が所有するグライダー「おとり」。この単座機で一人天空を飛ぶためには信頼できる仲間力が欠かせない。

航空部の活動は、主に週末、久住や白川でグライダー飛行を行っています。金曜日の夕方に出発し、1、2泊の合宿をします。飛行には、機体を動かすためのエンジンを動かす人が必要で、少くとも10〜15人がそろわないと合宿が成り立たず他大学と合同で行うことが少なくありません。現在は九州内の大学の航空部をまとめる役割を担い、交友関係も大きく広がっています。エンジンを持たないグライダーは、ワインチ

### 他大学との合同合宿で仲間との信頼関係も深まります

というエンジン動力を用いて、約1km離れた所からロープで機体を引っ張って空へと飛ばし、手で足で左右の向きや機首の上げ下げを調節します。自然の影響を受け、現在の地風が強い日は流されて、現在地を見失ってしまう「ロストポジション」という事態に陥ることもありますが、常に危険と隣り合わせということを忘れず、点検や技術向上のための努力を怠りません。年に数回、飛行時間と周回速度を競う大会に出場します。

# Q&A

## Q 就職に向けての準備は?

A 学力試験の模擬試験を受けました。SPIと一般教養の試験を本番前に試せるのは心強いです。予想よりも良い結果が出たことで自信ができました。これからはOB・OG訪問も積極的に行い、準備を進めていきたいです。

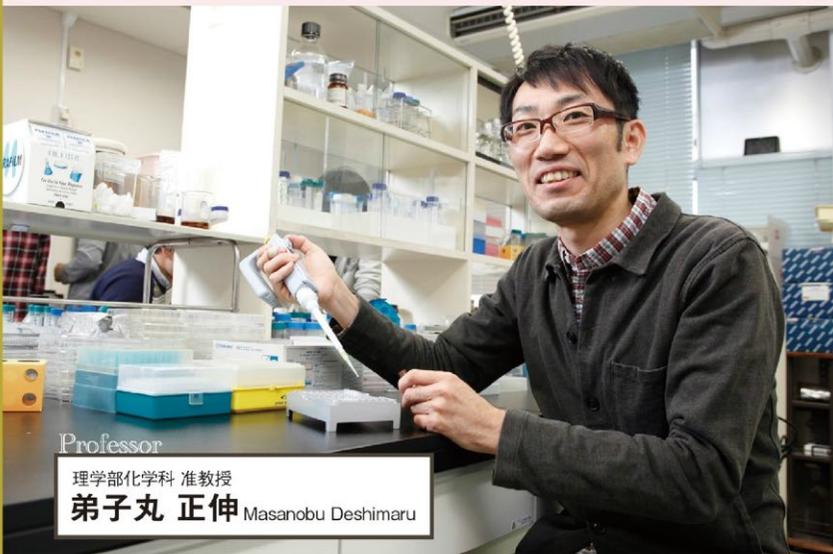
## Q 学内でよく利用するスポットは?

A 読書好きから中央図書館をよく利用しています。お気に入りの作家は東野圭吾。卒業するまでに著作をすべて読破するのが目標です。図書館では本を借りるだけでなく、試験勉強やパソコンを使っての就職活動にも利用しています。



# DNAの情報を書き換える、 生体必須のメカニズムに迫る

未来の医療への貢献が期待される「RNA編集」の研究



Professor  
理学部化学科 准教授  
弟子丸 正伸 Masanobu Deshimaru

理学部「機能生物化学実験室」にて、ヒトの培養細胞やマウスのRNAを使い、研究を行う。「分子生物学の一般論を良い意味で裏切るようなメカニズムが存在することに興味を持ちました」と弟子丸先生。



中を無菌に保つ装置「クリーンベンチ」で、細胞培養の実験を指導。「学生のアレクシヤな姿勢にいつも刺激を受けます」と話す先生。

## 重要なタンパク質を作る「RNA編集」

理学部化学科の弟子丸先生は、生体内の「RNA編集」という仕組みについて研究する日本で最も数少ない学者の一人です。RNA（リボ核酸）とは、DNA（デオキシリボ核酸）と同じく細胞の核酸で、遺伝情報をつかさどる重要な物質です。生体内では、DNAの情報を基に、アミノ酸を配列したタンパク質が作られます。タンパク質を作る過程でRNAは、DNAの情報をそっくり写し取り、読み出してタンパク質へとつなげる仲介役を担っています。「一般的に、DNAの持つ情報は正確にRNAにコピーされ、その情報に

忠実に従ってタンパク質が合成されます。しかし、ごくまれにRNAの段階で化学構造が変更（編集）され、元のDNA情報と合致しないタンパク質が作られる場合があります。それが「RNA編集」です」と先生は説明します。変更、編集という言葉を聞くと生体にマイナスの要素をもたらしようと感じますが、「むしろ必須の出来事です」と先生は補足します。「RNA編集は生体にプログラムされた重要な仕組みで、編集により体を正常に保つタンパク質が作られることが分かっています。元の情報と違うタンパク質ができるというのは、つまり一つのDNAから2種類のタンパク質を作ることができるということです。また、時と場合によって編集の度合いを調整する動きもあるなど、RNA編集は生体の環境への適応にも役立っています」。

先生がテーマに掲げるRNA編集の研究は、1990年頃から世界の注目を始めた新しい分野です。DNAが持つ情報に変わったタンパク質の合成については、「遺伝情報はDNA↓RNA↓タンパク質」と一方通行で流れるとする「セントラルドグマ」、そして、個々のDNAが一つの酵素を指定する「遺伝子-酵素仮説」が長く信じられてきました。

しかし、一つのDNAから複数のタンパク質が作られるRNA編集をはじめ、さまざまな仕組みが明らかになってきました。「修飾」の仕組みや役割について突き詰めていきたいと話します。

## RNA編集のメカニズム解明が精神疾患の謎を解く鍵にも

弟子丸先生はRNA編集の中でも、特に脳内のメカニズムについて研究しています。RNA編集を経ることで、数少ないDNAから多彩な機能を引き出すことができる一方で、RNA編集が正常に起こらないと脳の機能に異常をきたす可能性があるという先生は考えています。RNA編集集により脳内で作られる「セロトニン受容体」を例に説明してくれました。「セロトニンは、精神のバランスを取り、食欲の調節にも関係している脳内物質です。その情報を伝えるセロトニン受容体が正常なRNA編集を経て作られないと、うつ病などの精神疾患や過食症が起きる原因の一つになる」と考えられています。

最後に学生への教育指導について心掛けていることを聞きました。「学生が意欲的に研究に取り組む姿にはいつも励まされています。年次が上がり、あるいは大学院に進む中で、自身が疑問の種を見つけ解き明かす力を付けていくことが必要です。また自らの意見や疑問を奏することなく、アットホームな研究室の雰囲気づくりに心掛けています」。

## 芸大の音楽学部から理学部という異色の経歴

分子生物学の特異な分野の研究をしている弟子丸先生ですが、その経歴もユニークなものです。理系の大学に進学する前は、東京芸術大学の音楽学部で2年間を過ごしました。「小学生の頃から音楽と化学が大好きでした。当時の愛読書は9歳年上の兄が使っていた化学の参考書。ピアノの練習に明け暮れる一方で、フラスコなどの実験道具を親にねだるなど、かなり変わった子どもでした」と先生は笑います。

高校卒業後、一度は音楽の道を目指し芸大でオーボエを専攻しますが、途中で進路変更。音楽と同じく興味を持っていた化学を深く学ぶために理学部を再度受験しました。

「理学研究科修士課程1年の時、授業でRNA編集について教わったのが研究を始めたきっかけです。DNAの配列が生体のすべてを決定してい

今も研究の傍ら、プロの方々に混ざってオーボエを演奏する機会もある。

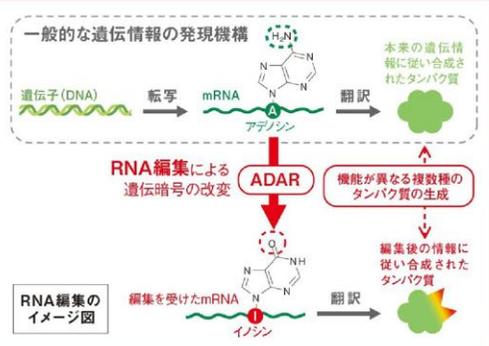


RNA編集の仕組みを分かりやすく図解で説明する先生。RNA編集はADAR(エイダー)という物質によって引き起こされている。



## さまざまな研究で解き明かされるRNA編集

弟子丸先生は「近年活性化する」トランスク립ション解析やプロテオーム解析により、RNA編集について詳細に分かっていくでしょう」とも話します。これらはそれぞれ、生体内に存在するすべてのRNA「および」すべてのタンパク質を明らかにしようという研究で、染色体遺伝のすべてを解き明かしたヒトゲノムプロジェクトを基盤にしています。そのほか、先生が今後掘り下げて調べたいと話す「mRNA（メッセンジャーRNA）は、RNA全体の2〜5%のみを占める微小なもの、私たちの遺伝子の奥の奥の研究が、病気の治療・予防に役立つ大きな成果を上げるかもしれません」。



# 講義ライブ90分

商学部の専門教育科目「情報社会論」は、市場情報だけでなく社会全般における情報の扱われ方、現在の問題点、そしてこれからの可能性を考察する授業です。授業中の学生の反応をスイッチ操作で瞬時に集計グラフ化できる「レスポンスアナライザー」を設置した教室で、まさに双方向のコミュニケーションを取り入れた授業が行われています。

## 商学部専門教育科目「情報社会論」

### 刻々と変動する情報社会を生きる知識と、判断力を養う

#### レスポンスアナライザーを使い 双方向のコミュニケーションを

産業、経済や文化とあらゆる分野でIT化が進み、私たちは、まさに高度情報社会の真ただ中で生活しています。今必要とされているのは自分が生きていくその社会をしっかりと把握して、めまぐるしく変わる環境の変化に応じて知識をリニューアルし、さらに情報を取



捨選択する判断力を養うこと。「情報社会論」は、そんな情報社会を生きる知恵」を学ぶ商学部の専門教育科目です。担当の永星先生は「この科目では市場だけでなく社会全般総合的な「情報」について学びます。アナログからデジタルへ、メディアと視聴率、ネットと広告、電子商取引と暗号技術、知財および個人情報保護について。さらに、情報倫理の持つ社会的意味に至るまで多岐にわたる全15回の授業です」と話します。

この授業の内容にふさわしく、「情報社会論」は、新たに設置されたレスポンスアナライザーのシステムを利用して授業を行います。このシステムは学生とより密な関係を築き、双方向のコミュニケーションが取れるように」と、商学部の先生方の発表で、昨年4月2号館の完成と同時に導入されました。「このシステムは問題を次から次に表示して学生に答えてもらい、瞬時に集計グラフ化でき

ることから、もともと医大の国試対策向けに開発されたものです。3教室に合計700台と、文系の学部にこれだけの規模で入れたのは全国でも初めてです」と永星先生は語ります。

#### 情報社会を考察する 授業だからこそ フェイストゥフェイスの つながりを重視

授業開始前、学生たちは席に着くと、まず、学生証をレスポンスアナライザーの上にセット。すると、先生のモニターには、各席の学生の名前が表示されます。この日の学生数は約100人。大人数の授業でも出欠状況を即座に集計できるだけでなく、先生が学生一人一人の名前を把握できることもメリットの一つ。「授業の効率化はもちろんのこと、学生側も名前を出して、見られていると自覚することで適度な緊張感が生まれ発言

#### My teaching style

永星 浩一 商学部 教授

「情報社会論」は性質上、流動的である意味特殊な授業かもしれません。情報は常にリニューアルし、授業内容や資料もそれに応じたものへと日々変わっていきます。現代の情報社会での立ち位置をしっかりと把握し、正しい判断ができる能力を身に付けることが最も重要だと考えています。そのために、レスポンスアナライザーを使うなど、学生とより深くかかわることができる授業を心掛けています。

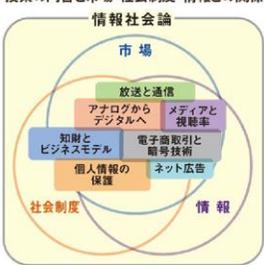


しようという主体性も促されます。「顔を突き合わせる「関係がより質の高い授業へとつながるのです」と授業前に話してくれた永星先生の言葉もうなずかれます。

この日の授業は「アナログからデジタルへ。記録、通信、放送、情報システムの移り変わりについて。いわば情報の歴史を学ぶ」プログラムの序盤の段階です。旧アナログ放送は電波の周波数(チャンネル)を多く必要としていました。地上デジタル放送は、少ない周波数ですむようになり、「前回の復習から授業が始まりました。」

そして大型スクリーンに「周波数が高いほど増やせるチャンネルの性質の違いによる電波の性質の違いと利用形態」通信衛星の仕組みなどを図やグラフで示し分かりやすく説明していきます。授業開始15分ほどのところで、最初のレスポンスアナライザーを使った小テストを実施しました。「より多くのチャンネルが取れるのはどちらか? a.低い周波数 b.高い周波数(正解はb)」。これまでの授業内容については、学生が、レスポンスアナライザーのボタンで答えを入力すると、集計結果がすぐさまスクリーンに表示されます。先生のモニターで、どの学生が正解したか、またこれまでの正解、不正解の履歴も見るができます。

#### 授業の内容と市場・社会制度・情報との関係



あつという間の90分「今回は、デジタル技術の重要な性質について話します」と予告して、先生は授業を終えました。

#### 学生の声

社会に出る上で重要な要素。情報を見極める姿勢が出てきました。

商学部商学科2年次生 福本 史紗さん

前期で受けた永星先生の授業「市場分析論」が興味深かったので、後期でも先生の「情報社会論」を受講しました。授業では、先生に名前前で当てられる機会が多いので、皆背筋が伸びて聞かれています。放送と通信に関する授業を経て、テレビやネットの情報をより深く調べるなど「情報を見極める」姿勢が出てきたと思います。



自分の意見も問われる  
双方向の授業は刺激的です。

商学部商学科4年次生 木下 智晴さん

インターネットやスマートフォンを使いこなすのが当たり前の情報社会ですが、その技術の裏側や仕組みを知りたくて履修しました。気軽に使えるからこそ意識すべきテラシーの語はすぐに実践しようと思いました。授業中、レスポンスアナライザーを使って自分の意見を問われるのはとても刺激的でした。



「パーソン、1サークル」。サークルに参加し充実した学生生活を送る。

ここでは若々しい情熱が燃え、仲間たちとの固い絆が結ばれている。



燃えろ!! 福大セブン

体育部会  
ハンドボール部

部員数は男女合わせて69人。男子、女子チームともに「本気でやる楽しさ」を伝えたいと両キャプテンは話します。



学術文化部会  
マンドリンクラブ

部員が目指す舞台は、年4回の演奏会。クラシックだけでなく、ポピュラーな洋楽まで、幅広い曲目を披露します。

情熱メッセージ



男子キャプテン  
高良 耕平さん  
(スポーツ科学部スポーツ科学科4年次生)  
部員数が多いため、キャプテンとして一人一人に目を配るように心掛けています。

女子キャプテン  
中満 千晶さん  
(スポーツ科学部健康運動科学科4年次生)

ハンドボール部の4年間の  
中で、今が一番良いチームに  
成長したと実感しています。

- 年間行事
- 5月 ●九州学生ハンドボールリーグ春季大会
  - 8月 ●西日本インカレ ●九州学生ハンドボールリーグ秋季大会
  - 11月 ●全日本インカレ



ハンドボールは攻守が一瞬で切り替わるスピード感が魅力。



練習は試合形式を多く取り入れ、実践を重視。



片手でボールを掴み上げ、高く跳躍しながら速球のシュートを打ち込む。

ハンドボールはゴールキーパーとコートプレーヤーの1チーム7人が40×20mのコートを前後半で計60分走り続けるハードな競技です。ハンドボール部は男子48人、女子21人。特に男子は全国の大学のハンドボール部の中でトップクラスの部員数を誇ります。また昨年9月、O日の清水博之さんが男子日本代表監督に就任するという誇らしいニュースもありました。しかも2012年度は男女ともに輝かしい成績を残しています。男子は8年ぶりに西日本

インカレでベスト4、九州の秋季リーグでは優勝を果たしました。男子キャプテンの高良耕平さんは伝統的なチームテーマである、勢いのある攻めを意識し、監督やコーチとの関係をより密に。また試合形式の練習を増やすなど、選手たちが話し合いを重ね練習メニューを組み立てたのも良かったと思います。一つと話します。最も重視しているディフェンスからの速攻、怒涛の攻撃も実践できているとか。

一方、女子も西日本インカレ3位、九州の秋季リーグ優勝と好成績を取りました。女子キャプテンの中満千晶さんは言います。女子は毎年それぞれ年代でテーマを変えているのですが、今年の私たちは徹底を掲げています。パス、キャッチ、シュート、基本的なことをミスなくやる、という強い意識がチーム力の向上につながりました。思ったこと含める良い雰囲気です。練習は週6回の18時から約3時間、「関東、関西の強豪と対戦」合えるチームにと両キャプテンは意気込んでいます。

成績も部員数も、そして熱い気持ちも  
全国の大学で屈指の存在

情熱メッセージ



幹事  
原田 裕平さん  
(理学部地球科学科3年次生)

音色が優しくてマンドリン自体の形も表情豊か。ぜひ演奏会でお確かめください。もちろん来年度新入生の入部も大歓迎。マンドリンファンを増やすために、部員100人を目指しています。

- 年間行事
- 4月 ●新入生勧誘週間
  - 5月 ●スプリングコンサート
  - 7月 ●音楽の夕べ ●マンドリンフェスティバル
  - 11月 ●七隈祭 出店
  - 12月 ●定期演奏会



夕食を共にすることで絆も強まり、合奏の完成度も高まる夏合宿。



学園祭「七隈祭」では模擬店を出店。



週4回、ヘリオスホールなどで練習。部員同士で教え合って技術を磨く。

トレモロとは小刻みに弦を強くマンドリンの演奏法のこと。半世紀を超える歴史を持つマンドリンクラブでは、サイズや音の高さが違う3種類のマンドリンとギター、ベースさらにパーカッションや管楽器も加えて、一つの曲目を合奏します。

部員78人という大所帯。大学に入るまでマンドリンに触れたことがない人も多く、皆の気持ちを一つに束ねていくだけでも大変です。幹事の原田さん。いろいろ悩める原田さん。いろいろ悩める原田さん。いろいろ悩める原田さん。

多くの人の支えを実感するのは、年に四度の晴れの舞台。7月の「マンドリンフェスティバル」は、他大学や学生会と共演できる年に一度の機会。演奏技術だけでなく、交流を通して人的にも成長できます。と原田さん。全員が同じ舞台上に上がる12月の「定期演奏会」では毎年メンバーと曲目が変わっても必ず演奏するレパートリーが一曲だけあります。それは福岡大学の校歌。福大生として恥ずかないように、と背筋を伸ばし演奏しています。ぜひ、演奏会に来てください。と、真つぐなまなざしで語ってくれました。

個と個が奏でる、美しいトレモロ  
人間性も豊かに響かせていく舞台

## 就職・進路支援センターからのお知らせ

平成26年3月卒業予定者対象  
「学内個別企業セミナー」  
「学内合同企業セミナー」  
の案内です。

◆以下のとおり学内において、  
個別企業セミナーならびに合同  
企業セミナーを開催します。

いずれの企業も本学学生の採用に  
積極的であり、学内で多くの企業の情  
報や採用情報入手できる絶好のチャ  
ンです。奮って参加し、今後の就職活  
動に役立ててください。

参加企業や開催日時、会場、申し込  
み方法などの詳細については、FUポ  
ータルや掲示、就職・進路支援セン  
ターのウェブサイトに掲載していますので、  
確認してください。

### 個別企業セミナー

#### 開催期間・参加企業数

- ①1月29日(火)～2月28日(木)  
1日8社予定  
※2月4日(月)～2月8日(金)の入試期間は除く  
※2月12日(火)～2月15日(金)は1日4社予定

- ②3月1日(金)～随時 1日5社予定  
※3月11日(月)～3月15日(金)は1日2社予定
- 会場/学内教室

### 合同企業セミナー

#### 開催期間・参加企業数

- ①2月12日(火)～2月16日(土)  
各日11社
- ②3月11日(月)～3月15日(金)  
各日22社
- 会場/文系センター棟1階[プラザ50]

就職・進路支援センターでは、あらゆる  
就職・進路に関する相談に、専任の  
スタッフをはじめキャリアカウンセラー  
や進路相談員(就職アドバイザー)が応  
じています。気軽に相談してください。

### 支援行事

行事日程や詳細については、  
FUポータルや学内掲示、就職・  
進路支援センターのウェブサイト  
をご覧ください。

先輩たちのあの日、あの時。そのリアルな経験を在学生の皆さんに。

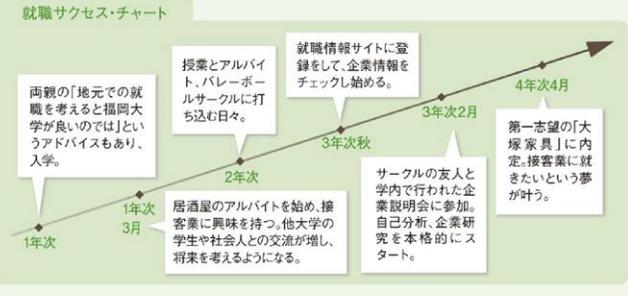
### 就活アドバイス

#### 就活仲間と励まし合いながら 自分だけの得意分野を持つ

同じ学部やサークルの友人と  
情報交換をしたり、励まし合っ  
たりすることでモチベーションを  
上げました。それから私の場合は  
アルバイトの経験でしたが、一つ  
でも具体的なエピソードのある  
得意分野を持っていると面接で  
も堂々と話せると思います。積極  
的に動いて夢を叶えてください。



最後にこれから  
就職活動に臨む後  
輩たちに「就活は  
情報収集がとても  
大事。大学のサポ  
ーターに大いに利用  
してください」とア  
ドバイスをくれま  
した。



### 就活アドバイス

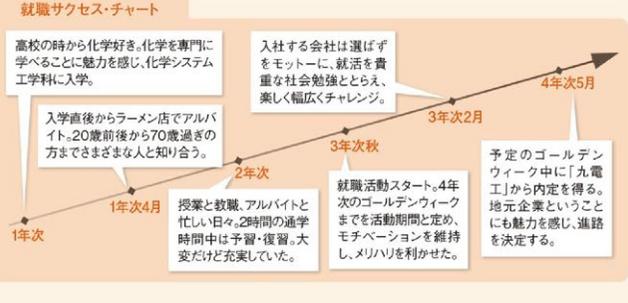
#### 企業の特徴やヒアリングを メモする就活ノートを作ろう

「就職活動専用ノート」を作  
り、企業の特徴や説明会で聞い  
たことなどを細かくメモしてい  
ました。就活中に作ったノートは  
全部で3冊。人生に一度しかない  
新卒での就職活動として社会  
勉強のダイアリーとして今でも  
大切な宝ものです。皆さんも試  
してみてもいいかもしれません。



化学系にこだわらずチャレンジ。結果、九電  
工の内定を得たのです。

内定時期は4年  
次のゴールデンウ  
ィーク中。計画ど  
おりに意中の企業  
を射止めました。入  
社5年目の今、目標  
は人間力と技術力  
を兼ね備えた九電  
エマン。気持ちは常  
にぶれていません。



## Success 1

### 就職・進路支援センターの活用が 接客業への夢を叶えてくれた

商品・家具をご購入いただく前に  
私という人間を信頼していただく



IDC大塚家具 福岡ショールーム  
経済学部経済学科 2007年卒業  
大森 尊悟さん

国内内外さまざまな家具・インテリアを販  
売する「IDC大塚家具」でインテリアアド  
バイザーとして活躍する大森尊悟さん。全  
国15カ所にショールームを構える同社の福岡  
ショールームに勤めて6年目になります。

「ショールームにお越しいただくお客さま  
の多くは、買った物をはたきりと決めます  
おみえになります。1万8,000点以上の  
インテリアアイテムがありますので、ゆっ  
くりと2〜3時間かけて見てくださるお客さ  
まも少なくありません。私がいつも心掛け  
ているのは、まずは笑顔で「あ、あ、あ」と  
リラックスして家具を見ていただくこと。一  
緒にショールームを見て回りながら、どん  
ご希望をお持ちなのかじっくりお話を伺い  
ます。家具をご購入いただく前に自分を信  
頼してもらうことを大事にしています。」

大森さんが接客業に興味を持ったのは  
1年次の春休みのこと。居酒屋でアルバイト  
を始めたことがきっかけでした。実はそ  
れまではあまり人と接することが得意で  
はなかったという大森さん。アルバイト先  
の7歳年上の先輩がお客さまの年齢やタ  
イプに合わせて接客している姿にあこが  
れ、コミュニケーションの面白さのめり  
込んでいきました。お客さまに喜んでら  
いたい一心で、常連のお客さまが好きそう  
なお酒を仕入れたり、おいしい料理を見つ  
けたら厨房スタッフに伝えて作ってもらっ  
たりと工夫を重ねていたそうです。「お客  
さまと深くかわかる接客業」を志すよう  
になったのも、この自然な流れでした。

### 面接を受けに行く前には必ず 「入社試験報告書」で予習

3年次の秋に就職情報サイトへの登録  
はしていたものの、就職活動を本格的に開  
始したのは3年次の2月と少し遅めだっ  
た大森さん。大学で行われる企業説明会に  
参加し、就職活動用のノートを真っ黒にし  
て企業研究や自己分析を進めました。自  
分一人でもういろいろ分らない時は  
友人や就職・進路支援センターのスタッ  
フの方に相談したそうです。

就職・進路支援センターを活用していた  
友人に利用法を聞き、企業に面接に行く前  
には「入社試験報告書」を読み、面接でど  
んなに聞かれるのか予習して心の準備  
をしたと言います。

接客業を目指していた大森さん。面接は  
得意だったのかと思いきや、面接で話すと  
緊張するタイプだったため、事前に話すこ  
とをあまり詳細に準備しないようしてい  
ました。暗記していた言葉も忘れて頭が  
真っ白になるのが怖かったため、面接で聞

## Success 2

### 重要なのはどこに入るかではなく 入社した会社でどれだけ頑張れるか

専攻の化学系から建築系へ  
現場で人間の面白さを学ぶ毎日



株式会社九電工  
工学部化学システム工学科 2008年卒業  
森田 健太郎さん

九電工の空調管理技術部から山口支社へ  
現場監督技術者として配属中の森田健太郎  
さん。「建築物の機能を生かすインフラ設  
備(例えば空調や防災、給排水設備を作り上  
げるのが当社の仕事です。現在私が携わる  
のはそのインフラ設備に携わる施工管理  
業務です。この建築物の施工に対してさ  
まざまな業者の方が携わります。業者の方  
それぞれに施工内容と時間に目標があるた  
めその作業時間と場所の管理・調整が必要  
になってきます。その管理・調整が一番大変  
です」。父親世代の業者の責任者の方とのや  
りとりは調整役も必要ですが、軽く見  
られては調整役が果たせません。押すとこ  
こは押す。引くとこは引く。その微妙なさじ加  
減が大人の駆け引きです。と白い歯を見せ  
る森田さん。人の情や原価計算などが複雑  
にかかわる状況を、どこか楽しんでいるふう  
にも見えます。

「ものづくりが好きで工学部を選び、化学  
が好きだから化学システム工学科へ。それ  
がなぜか今は、建築現場で人間関係づくり  
の勉強をしています。人生って面白いで  
す。けれども森田さんは、状況に流されて  
現在に至っているわけではありません。就  
職活動にはぶれない気持ちとたゆみない  
努力で臨みました。」

### 自己を掘り下げ 柔軟な発想で内定を得る

3年次の秋から本格的な就職活動を始

次に就職・進路支援センターで自己分析  
に関する講座とエントリーシートの添削  
を受け、あらためて自分を見つめました。  
学びには真摯に取り組み、まじめに授業に  
出席していたこと。教職課程も選択し高校  
教諭一種免許工業を、取得したこと。入学  
直後からJIT駅内のラーメン店でアルバイト  
をして、さまざまな年代や境遇の人たち  
と知り合ったこと。周囲から大人っぽくて  
物に好きな理由をよく言われること。化  
学が好きな理由はその実証精神・実験精神  
に共感できるから。そうして自己を掘り下  
げ、見えてきたのは「自分にとって重要な  
のはどこに入るかではなく、入社した会社  
でどれだけ頑張れるか」という、一般とは逆  
の発想でした。

森田さんはこの発想のもと、就職活動を  
人生で一度しかない貴重な経験としてこな

# 「オフポンプ手術」の草分け そして、これからも牽引者として

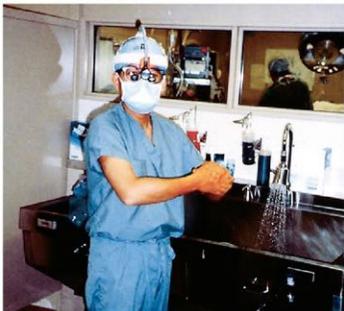
心臓血管外科診療部長 田代忠 教授(医学部)



術中、先生は拡大鏡から視線を外すことなく、周囲のスタッフに注意を払っている。「手術の成功」はチーム全員で成し遂げるべきことだから。



心臓は、顔診で分からないことも多いのでカルテや聴診も重要。



拡大鏡を装着し、手を洗う。先生が「初心に戻る」瞬間。



2.5倍の大きさに映る拡大鏡。45cm離れると焦点がびたりと合う。田代先生の視力に合わせた特注品。



循環器内科と心臓血管外科が共に医療に取り組むパートナー。リハビリテーションのための施設も設置。

## 20年間止まっていた オフポンプ手術の時計が動く

今上天皇が受けられたことでその名を知られるようになった「オフポンプ手術」。田代先生は、この手術の日本における草分け的存在であり、現在に至るまで積極的なけん引者でもあります。

オフポンプ手術とは、端的に言えば「冠動脈バイパス手術」の一方法です。冠動脈とは心臓に沿って走る、心臓の筋肉に酸素と栄養を送り込む役目を担う3本の血管のこと。この血管にコレステロールなどが溜まって狭くなり詰まってしまうと、血液の流れが悪化して虚血性心疾患になり、重症な場合は心筋梗塞を引き起こします。これに対する外科的な治療が冠動脈バイパス手術です。文字通り、新しい血管をバイパスのように加えるこの手術には、大きく分けて二つの方法があります。

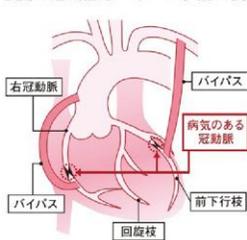
一つは手術中、人工心肺というポンプを体に繋いで、心臓を止めて手術を行う「オンポンプ」という方法で、現在も日本の冠動脈バイパス手術の約4割はこの方法で行われています。もう一つが心臓を動かしたまま手術する「オフポンプ」という方法です。福岡大学病院で行われている冠動脈バイパス手術のほぼ100%はオフポンプ。田代先生からその理由を聞きました。「この手術の最大の利点は、低侵襲(体への負担が少ない)であることです。通常、心臓外科の手術というのは術後管理が非常に大変で、少なくとも術後一晩は一瞬も目を離せない緊迫した状態が

医師として臨床を重んじ、医師の倫理性を大切にされた古代ギリシアの「医聖」。その精神を現代に受け継ぐ、福岡大学のヒポクラテスを紹介します。

続くと危険です。特に人工心肺を使う場合は一度心臓を止めるので、再び動かしただ時に合併症を起こす可能性があります。そういったリスクを少しでも減らさないかと始まったのがオフポンプ手術なのです。」

日本で最初の成功例は1970年でしたが、続く例目には実に20年後の1991年、田代先生の執刀によるものでした。その10年後の2001年には、田代先生のオフポンプ手術の技術を学ぶために福岡大学の講堂に全国から約200人の医師が訪れ、手術の模様の中継も行われました。田代先生はこうしてオフポンプの草分けから第一人者としてけん引者として常に医療界をリードしてきました。

心臓の冠動脈とバイパス手術の例



## 黎明期の日本の心臓外科に 希望と可能性の光を掲げて

田代先生は、オフポンプ手術の直前に拡大鏡を装着し、これから始める手術の行程を確認するような表情で丁寧に手を洗います。「儀式のようなこの時間が引き締めてくれる」のだそうです。先生が初めて拡大鏡を

買ったのは、1986年。日本で10年ほど医師として勤務した後、心臓外科医として歩むことを決意し、技術向上のためカナダのトロント総合病院へ。その際に心臓外科医の証ともいえる拡大鏡を購入しました。「直径1mm程の冠動脈を、髪の毛より細い糸で吻合する手術には拡大鏡が欠かせません。オーダーメイドですから、当時の物価で20万円、清水の舞台から飛び降りるような気持ちで買いました。私にとってこれは心臓外科医としてのアイデンティティ、その宝物です。」

当時から北米やヨーロッパは、動脈硬化や狭心症の発症例が多く、心臓外科手術の先進国でした。手術の数も日本とは比較にならないくらいです。冠動脈バイパス手術が、週に5、6例というペースで行われていました。国内では年に2、3例しかなく、成功例も少ない、夜明けの時代でした」と田代先生。しかし、トロント総合病院で毎日のように心臓手術を行った先生は、手術のスピードと正確性を身に付けました。「1分1秒を争うタイムレースのような心臓手術。二つのプロセスに無駄は許されません。冠動脈バイパス手術ではバイパスとして使う血管を脚や腕から取り出します。カナダ時代に「なるべく早く脚の静脈を取って、傷を閉じてバンテージを巻いて」指示を受け、気付くと15分でやり終えていました。当時の日本の手術現場ではあり得ないようなスピードですが、いつの間にかそれができるようになっていました。」

## 患者さんとその家族はもちろん チームの想いも受け止める

言うまでもなく心臓は全身に血液を送るポンプの役割を持ち、その活動が命と直結する極めて重要な臓器です。常に予断を許

田代先生にとって心臓外科医の使命とは？この質問に、チーム医療をビラミッドに例えるならば、私たちは先端の部分任せられています」という答え。これについて印象的なエピソードを聞くことができました。「患者さんの病気の発見から治療までには、多くの内科医や看護師、検査室にも多くのスタッフが関わっています。以前、ある内科医から「手術が失敗したら、患者さんやその家族はもちろんです。そこまでかわって来たスタッフの苦労も報われない。お願いします」と言われて最後に自分に任された責任の重さを再認識しました。」

田代先生は、チームの力を信じています。通常、一つの冠動脈バイパス手術には心臓外科医が3、4人と麻酔科の医師が3つきます。「彼らの力を信じているから、私は拡大鏡から目を離さず、手元で集中することが出来ます。」そして術後は、福岡大学病院の特設としてリハビリに内科医が加わり、約1〜2週間という短い期間で、歩行や自転車に乗ることが出来るレベルにまで回復するのです。先生は最後に医学部生たちへメールを送ってくれました。「勉強はもちろ然大事です。ただ想像力や仲間のことや思いやりの気持ちは養うためには、部活動や友人との付き合いも重要。無駄な経験は一つとしてはいはずです。」

# さまざまな分野の専門医が連携、 「診る」そして「治療する」 最先端の内視鏡センター

## カプセル内視鏡をはじめとした最新機器、専門医が集まる中央診療体制のセンター

診療部長 岩崎昭憲先生  
副診療部長 入江真先生  
副診療部長 星野誠一郎先生



内視鏡センター  
診療部長  
岩崎 昭憲 先生

福岡大病院新館2階には、最先端の内視鏡と専門医・専門看護師を擁する「内視鏡センター」があります。2011年に設置された同センターは中央診療体制のシステム。消化器科、呼吸器科、耳鼻咽喉科など、さまざまな内科、外科の検査や治療を一括して行っています。そのためスタッフ体制も、呼吸器・乳癌内分分泌・小児外科が専門の診療部長をはじめ、消化器内科学、消化器外科が専門の各副診療部長を含めた三人を中心に、各診療科から構成し協力体制を構築しています。

体の内部の状態を調べる方法には、レントゲンやCT、MRIなどもありますが、内視鏡は臓器の色調の変化や微細病変まで正確に識別でき、異常があれば直ちに組織検査を行うことができます。

岩崎先生は「近年、内視鏡を使った検査や治療は目まぐるしく発展しています。例えば「カプセル内視鏡」や「ダブルバルーン内視鏡」の登場により、今までカメラの届かなかった小腸11～12指腸まで正確に観察できるようになりました」と話します。カプセル内視鏡は飲み込むタイプの小型内視鏡で、ダブルバルーン内視鏡は膨らませたバルーンを装着し、小腸をたぐり寄せ、取り除くように腸内を進んでいく内視鏡です。これにより、長い管腔内を観察しにくく「暗黒の臓器」と呼ばれていた小腸の検査が比較的容易にできるようになりました。また、正常な組織がある特定の波長の光に反応する性質を利用した「蛍光内視鏡」により、早期のがんが見つかりやすくなったとも先生は言います。

## 医療安全、教育の両面で最新の内視鏡治療を行う

岩崎先生は「当センターでは医療安全はもちろんのこと、大病院ならではの教育という部分にも力を入れています」と話します。感染対策のため、すべての内視鏡機器は毎回使用する度に、専用の洗浄機と消毒液を使って十分な洗浄を行います。また、治療方針を決めるカンファレンスを頻繁に行い、内視鏡専門の看護師が医師をサポートし、器具のチェック、メンテナンスや患者さんへのケアも徹底して行っています。

## 九州外からも患者が訪れる厚生労働省認可の先進医療

「当センターが力を入れる内視鏡治療の一つに「POEM(経口内視鏡的筋層切開術)があります」と、同治療を担当する消化器外科の塩田先生が、岩崎先生と一緒に説明してくれました。POEMは10万人に一人が発症するといわれる食事が取れなくなる病「食

さらに「センターの管理室には内視鏡室全部7室の様子だけでなく、それぞれたびがあります。これにより、多くの目で治療の進行を確認できるほか、手順を学生に教える時にも、内視鏡室を訪れることなく患者さんへ負担を掛けずに済みます」と先生。そのほか、内視鏡を安全にスムーズに挿入するためのトレーニングマシンを導入するなど、内視鏡センターは学生の教育にも大いに役に立っているのです。

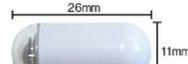


センターには、内視鏡室、検査室がそれぞれ複数あり、各部屋の様子や内視鏡による画像が大型モニターに映し出される。治療方針を検討するカンファレンスや学生の指導に活用している。

## TOPICS 01

### 小腸の正確な観察が可能に二つの最先端内視鏡に注目

「カプセル内視鏡」とは26×11mmで10円玉サイズの内視鏡のこと。レンズが付いたカプセルを飲み込み、レコーダーに転送された画像を見て小腸内を観察します。また、同じく腸内を見る「ダブルバルーン内視鏡」は、風船状のバルーンを付けることで、伸縮する不安定な小腸内を進むことができますのです。



カプセル内視鏡。小型ながら1分間に約100枚の画像を撮影できる優れた内視鏡。



ダブルバルーン内視鏡。膨らませたバルーンが小腸の壁に密着して固定できるようなっている。

## TOPICS 02

### 先進医療の認可を受けた内視鏡治療法「POEM」

食道の一部が狭くなることで、食事が通らなくなる症状や、吐き気やつかえ感が起こる病気「食道アカラシア」の治療で「POEM」を行います。全身麻酔下で経口内視鏡(胃カメラ)を用いて治療。粘膜下層を剥離し胃の入口部までトンネルを作成。食道の内側の筋肉のみを切開します。体表を傷つけることなく、患者さんへの負担の少ない治療法です。



「POEM」は口から入れた胃カメラを使い、食道の内側の筋肉を切開する内視鏡治療。



筋層を切開した後、止血処置を行いクリップでトンネルの入口を閉鎖し終了する。



1



2



3



4

1「内視鏡センター」は2011年、福岡大病院新館が完成した時に設立。2医師、看護師と、内視鏡のプロフェッショナルがそろったチームで患者さんの治療にあたります。3内視鏡のカメラや処置具を動かすハンドル操作を学ぶ内視鏡トレーニングマシン。人型の模型の口の内視鏡を正確に挿入しないと嘔吐(おうと)の声を発する。440本近い内視鏡を治療部位によって使い分け

小さな不安、揺らぐ思い、ふと立ち止まる心。誰にでもありそうなキャンパスライフの戸惑いを、前向きに考えるための、心のサプリメントをお届けします。

階段の踊り場で立ちすくむような気持ち。でもそれが新しいフロアへの始まりなのです。

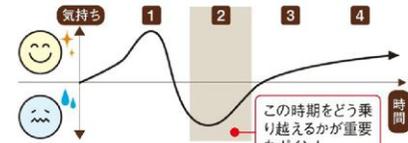
## 感情の波に動揺せず、ゆつくりとチューニング

もう間もなく春の足音が聞こえてきます。春を迎えると新学年や就職活動の始動、課外活動でも新しい立場が待っているなど、何かと違った環境に身を置く時期です。最初は環境の変化に胸を踊らせ気持ちも高まっていますが、一定期間を過ぎれば、思い描いていたイメージや、自分の理想との違いを感じ、気持ちがダウンしてしまうことも。五月病もその一つといえるでしょう。ただこの気分の浮き沈みは、心理学用語でいえば「適応の曲線」と呼ばれるもので、誰しも訪れるごく普通の感情です。落ち込んでいるときには、このまま自分はどうもダメになってしまおうのではと思いがちですが、感情には波があるものだと事前に知っておくことで、いざ心が沈んだときにでも慌てずに「こういうものなんだ」と気持ちを落ち着かせることができます。気分が浮き沈みがあると、何とか解決したいと気持ちは焦ってしまおうでしょう。しかし、新しい環境で自分を発揮させていくには、時間をかけて「チューニング」を。その環境にゆつくりと自分の周波数を合わせていけばいいのです。

## 自分を客観的に見てセルフプロデュースを

チューニングの工夫の一つとしては、自分を少し客観視していくというのも手かもしれません。例えばどう動いたらいいのかわからない自分とすると、それを客観視するもう一人の自分が、その

適応のプロセス(適応の曲線)



- 1 新しい出発……新しい環境への期待と意欲にあふれる。
- 2 失望……自分が慣れ親しんだ文化との違いを実感。不安を感じ、新しい環境に嫌悪感を抱いたり、失望したりする。
- 3 前向き……友人ができたり、ある程度の生活リズムが作られる中で、少しずつ前向きになる時期。
- 4 適応……新しい環境に慣れ、この環境を楽しめたり、自分なりのスタイルが作られるように。

マネージャーになってみるのです。やはり自分を一番分かっているのは自分自身ですから、周りの人からもらうさまざまなアドバイスを参考にしつつ、どのように動くのが最も自分らしいか、マネージャーの立場から客観的に考えてみます。そうすると、「見手詰まり」に思える悩みにも慌てず、自分なりの打開策を見つけていけるかもしれません。また、新しい環境の中だけで能力を発揮しようとするのではなく、今までなじみのある環境とも行き来して自信を取り戻したり、自分の長所を見つめ直すことも良いと思います。それは幼なじみでもいいし、家族でも構いません。中には新しい環境に適応するために、今までなじんできた環境を遠ざけ、頭を切り替えてはとる人もいます。かもしませんが、無理をしなくていいのです。とにかく大事なものは、人とのつながりを作っておくことです。新しい環境では、自分一人でも何とかしようとせずに、同期の仲間や最初にお世話してくれた先輩、もちろん大学の先生にも積極的に相談しましょう。相談するのが苦手な人もいるでしょうが、愚痴も含めて頼ってみましょう。この迷いの時期はある意味、人に頼ることを試すチャンスととらえることもできます。人はやはり、一人では生きていけないのですから。

## 小さな行動一つで不安を払拭できることも

新しい環境に飛び込むときは気持ちが落ち込むだけでなく、まだ訪れてもない将来に対して想像するだけで不安になることもあります。心理学的には「予期不安」といってこれもまた自然な

感情です。「予期不安」というのは必ずしも悪いことばかりではありません。まだ現れていないことに対し用心をしたり準備をしたりするのは人間が本来備えている特徴ですし、それによりミスを防ぐことにもなります。ですが、その不安感もある程度で止めておくことが大事です。就職が決まった人は、ホッとする一方で、その仕事で自分が自分に合っているのだろうか、果たして自分もやれるのだろうかという思いに駆られるかもしれません。しかし会社でも部署によって仕事は全然違いますし、入ってみて得意分野を見つけていくというのも一つの考え方です。ざっと皆さんのご両親も、最初から自分びつたりの仕事を見つけていた訳ではなく、何かの縁で就職が決まりキャリアを積み重ねていく中で、自分を発揮できる場所を築いてきたはずですよ。自分の中で不安になっていることでも、ちょっとしただけの行動によって安心したりするものです。一見、気持ちの持ち方を変えなければ何も始まらないと思いがちですが、小さな行動が自身を変えらるきっかけになることもあるのです。

## まずは自分なりの一歩から

これまで4回にわたってこの連載を行ってきました。大学時代は勉強や課外活動、就職活動などさまざまな経験を経て大人へ脱皮する心の成長期です。自分の持ち味が発揮できなくて、自信を失うことも気分が落ち込んだりすることもあるでしょう。でも、失敗を恐れますは小さな一歩を踏み出すことそれが自信になり新たな原動力になるのです。皆さんの周りにはたくさんの応援をしてくれている人たちがいることを忘れず、自立した大人への階段をゆつくりと上ってください。



【監修】  
人文学部教育・臨床心理学科  
本山 智敬 講師



今回は、春に向けて新しい環境に身を置く在学生や卒業生に向けての応援メッセージです。4回にわたるこの連載では、入学から卒業にかけて、大学生活のあらゆる局面で生じる心の揺れとどのように向き合っていくか、そのヒントを紹介してきました。心の成長は決して目に見えませんが、客観的に測ることも出来ません。しかし私は、大学生の心の成長は、小学校の6年間での体の成長に匹敵する程大きいと感じています。その変化は時にしんどさを伴うこともありますが、皆さんなりの工夫でそれを乗り越えていって欲しいと願っています。

来てみて話して  
こころの整理

## ヒューマンディベロップメントセンター (HDセンター：学生相談室)のご案内

ヒューマンディベロップメントセンターでは、春季休暇中も、カウンセラーが皆さんからの相談を受け付けています。春休みの過ごし方を考えたい、卒業を前に気持ちの整理をしたい…など、どんな相談でも結構です。一人で悩まずに一度来てみましょうか？

相談内容の秘密は守りますので、安心して相談してください。

相談時間 月・水・金/9:30~16:00 火・木/9:30~18:40

場所 学生部事務室棟3階(1階に学生課のある建物)

●本学学生のごとであれば、ご家族・教職員の皆さまからのご相談もお受けしています。

予約・お問い合わせ 092-871-6631(代) (内線2630)

※お電話は平日の16時30分までをお願いします。

ウェブサイト (<http://www.adm.fukuoka-u.ac.jp/fu816/home1/hd1.htm>) もご覧ください。

### 春季セミナーのお知らせ

春休み期間中、以下のグループ・セミナーを実施しています。どの学年の方でも参加できますので、関心のある方は、気軽に問い合わせください(参加費は無料です)。

- 「インターネット依存」を考える  
・3月12日(火) 14:00~16:00(担当カウンセラー：松尾)
- 社会で役立つ対人関係スキルセミナー  
・3月14日(木) 12:40~16:00(担当カウンセラー：屋宮)
- やりたい自分探しセミナー  
・Part 1 / 3月18日(月) ・Part 2 / 3月25日(月)  
12:40~16:00(担当カウンセラー：屋宮)
- 自分らしい表現講座  
・Part 1 / 3月21日(木) ・Part 2 / 3月28日(木)  
12:40~16:00(担当カウンセラー：屋宮)

●参加ご希望の方は、事前にご予約ください。



# 2012年度第8回 学生チャレンジプロジェクト



2012年度に第8回目を迎える「学生チャレンジプロジェクト」の皆さんが自由な発想で企画した独自のプロジェクトを福岡大学がサポートするもので「福大生ステップアッププログラム」の一つでもあります。今回採択された3件の企画のメンバーに活動状況をお聞きしました。

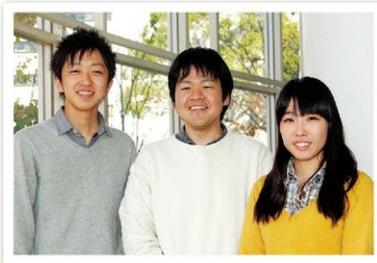
## 福大生のための防災対策 「福大から地域へ広めよう」

代表者：福重達也さん

(経済学部経済学科3年次生)

### ●計画概要

福岡大学の防災対策の重要性を学生に知ってもらい、地域の方との交流を通じて防災について連携することを目的とする。防災意識を高めるためのリーフレットを制作し、ワークショップも開催。



【プロジェクトメンバー】  
写真は左から 田中晴規さん、代表の福重達也さん、竹藤千翔さん  
そのほか、松田哲弥さん、木村真理子さん、井藤隼人さんが参加

代表の福重達也さんは2011年の夏に、福岡大学の東日本災害ボランティアに参加して東北に赴きました。「メディアでは復興が進んでいると見

聞きしていましたが、実際に現地に行くと呼かけずの地域もありました。被災地の方から「来てくれて本当にありがたい。だけど、もうほかの地域の人にも同じ思いをしてほしくないから福岡でも災害の備えをして」と言われたことが心に残りました。

福重さんは「震災をきっかけに福岡各地から多くの学生が災害ボランティアに参加しました。その力を今度は福岡の防災に生かしてはどうだろうか」と思い、仲間を誘って防災プロジェクトを開始。福重さんは今回の目的を、学内の防災対策を学生と共有することで防災意識を高め、さらに地域の方々とこれまでに以上に連携できるように顔の見える協力体制をつくっていくことに決めました。

まずは学内で約800人にアンケートをとり福岡大学の防災意識を調べ、福岡大学の防災対策を知するために総務課や医学部、福岡大病院を訪ねて話を聞きました。さらに地域の皆さんの理解を得るため、自治協議会や区役所、消防、警察へも行き、また田中さんもこのプロジェクトにかかわらなければ出会えなかった方々からさまざまなお話を聞きました。これは今後の糧となる貴重な経験と口をそろえます。昨年12月1日には活動の集大成ともいえるワークショップを成功させ、「このプロジェクトがきっかけになり、災害時に福岡大学生と地域の方々がお互いを助け合うきっかけになれば」と今後の展望を語ってくれました。



福重さんは、昨年東北学院大学災害ボランティアステーションコーディネーターの方と意見交換する機会を得た。



ワークショップでは地域の方々と防災対策について意見交換を行った。

## キャンパスライフを 豊かにするアプリケーション

代表者：山本明さん

(理学部物理科学科3年次生)

### ●計画概要

2011年4月から配信を開始した福岡大学の学生用「F.U.ナビ」アプリケーション「F.U.ナビ2011」をバージョンアップ。iOS対応、衛星写真機能の追加などに発展。



【プロジェクトメンバー】  
写真は左から 松下孝廣さん、鹿毛香穂里さん、代表の山本明さん、野田悠斗さん、碓本高史さん

本プロジェクトは、代表の山本明さんがサポートメンバーとして関わった2011年のプロジェクトをさらに発展させることを目的にはじまりました。

た。スマートフォン用のアプリケーションである「F.U.ナビ2011」の開発当時、チーム内で唯一の2年次生だった山本さんは、先輩方が作ったアプリをいかに改良し、最大の変更点は、GPSのみに対応していたアプリケーションをiOSにも対応できるように作り変えた点でした。両OSに対応させるため、前年とは異なる開発環境という言語でプログラムを組んだのですが、その知識を持ったメンバーがいなかったため専門書を読み、何度も失敗を重ねながら進められたと山本さん。

主にプログラムを書く作業は山本さんと碓本さんが担当し、マップの座標を調べ、緻密な計算作業は松下さん、アプリケーションのリンク先のウェブサイトは鹿毛さんが作るなど、各々の持ち味を生かして役割を分担しました。また野田さんは、このプロジェクトを機にプログラミングの会社にインターンシップへ行く。

本プロジェクトに参加する意義について山本さんは「自分たちのやりたいプロジェクトに集中して取り組め、失敗もできて、アドバイスまでもらえるのは学生の特権」と言います。完成したアプリケーションを世界に向けて発信できるように、すでにiPod touchでは公開を始まりました。また、iPod touchは今後公開予定で、「学生の皆さんはもうみんな、新入生や学外の方にもっと見易いのあるアプリケーションに仕上がっています。ぜひダウンロードして学生生活をもっと豊かにしてもらえれば」と力強くPRしてくれました。



アプリの動作確認をするメンバー。



現在位置と周辺の様子が見える衛星写真機能が加わり、前年より使いやすく進化した。

## 家で作りやすい日中 人気料理のレシピを編集する

代表者：孫東良さん

(工学研究科2年次生)

### ●計画概要

中国で人気の日本料理と日本で人気の中国料理を調べ、そのレシピを二カ国語に訳したり、リーフレットを作成「家でも作れる」という身近さを大事に編集。



【プロジェクトメンバー】  
写真は左から 張卓さん、徐宏磊さん、代表の孫東良さん、王聡さん、そのほか、王賢さん、王瑞芳さん、張春霞さんが参加

代表の孫東良さんとプロジェクトの参加メンバーは、中国、黒竜江省のハルビン出身という共通点があります。大学で学ぶ分野こそ違いますが、

が、「中国と日本の架け橋になりたい」という一つの目標を抱け、留学生ならではの経験と視点を生かして学生チャレンジプロジェクトに参加することを決めました。

国や年齢が進っても、誰も興味を持ってテーマを考えると、食文化を選択。代表の孫さんの特技が料理だったことも背中を押したそう。メンバーの王さんが「孫さんの料理の腕は、中国の大学で行われた料理のコンテストでも第一位に輝いたほどです」と言うので、徐さんと張さんもうなずきます。今回のプロジェクトの目的は、「中国で人気の日本料理、日本で人気の中国料理をレシピ化し、二カ国語に翻訳することに決まりました」。

まず学内で約400人の学生にアンケートをとり、日本で人気の中国料理を調べました。次に中国、韓国から来ている留学生を対象に好きな日本料理をヒアリング。孫さんは「知らない人に声を掛けて、日本語でアンケートをお願いすることは大変でしたが、勉強になりました」と振り返ります。次にアンケートで分かった人気メニューの作り方のコツや食材の入手方法を調べるため、それぞれの料理の専門店を訪ねた。このプロジェクトにかかわったことで、徐さんは「チームで動く大切さ」を知り、張さんは「日本でありメジャーではない中国料理にもおいしい料理はたくさんある。今後とも紹介したい」と新たな目標を見つけたようです。孫さんは「異文化の良さを知れば、相互理解も深まります。先輩たちにもこのような活動を続けてほしい」と後輩たちに国際交流への思いを託しました。



孫さんの自宅のキッチンで何度も試作と試食を繰り返したのは良い思い出。



キャンパス内の人通りが多い場所と時間を狙ってアンケートを実施した。

地域活性化支援塾  
 地域コーディネーター  
 育成プロジェクト

地域支援を通じて企画力、  
 コーディネート力を身に付ける

ファシリテーションで  
 商店街の底力を引き出す

福岡大学には、人材育成事業をはじめさまざまな課外教育を行う「エクステンションセンター」があります。その講座の一つ「地域活性化支援塾」は福岡大学、地域行政、商店街が協力し「地域再生への足掛かりを作る三者連携の取り組みで、3年前からスタートしました。学生は約半時間の講座や現地でのワークショップを経て、話し合いの場で多様な意見、個々の力を引き出すようにかじ取りをする「ファシリテーション」技術を学びます。

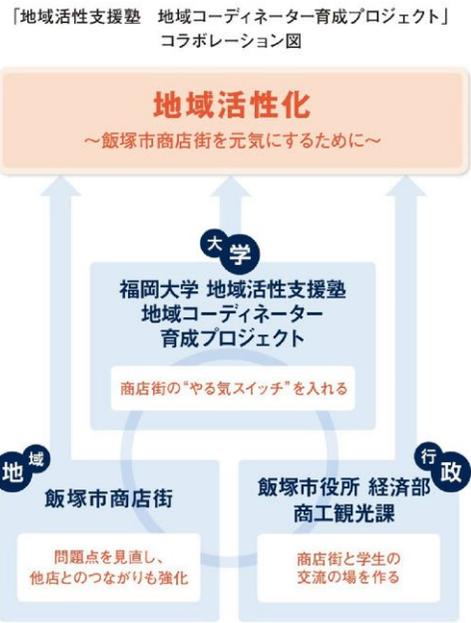
一方、商店街側は新たな声を受け入れることで、本当の問題点は何か、どういふ商店街にしていくのかをあらためて考える長き機会となるなど、双方にメリットがあるのです。担当の商学部、村上剛人先生は「商店街の方々のやる気スイッチを入れることが重要で、学生が提案するアイデアを『面白いからやってみよう』と、商店街の方にも実施していくというシナリオのもと実施しています」と言います。また村上先生と一緒に本講座を担当するファシリテーターの田坂逸朗さんは「現代社会ではどの分野でも地域センスが必要とされています。講座では意見やアイデアを引き出し、掛け合わせ、動き出すように進めるファシリテーションスキルを磨きます」とも話します。学生は実際に地域の課題を解決

するプロセスを体験しながらファシリテーション技術やコーディネート力、企画力を身に付けていくのです。

「ワールド・カフェ」で  
 商店街の問題点を探る

福津、前原、直方、に続き今年度、地域活性化支援塾の対象となったのが飯塚市の商店街。学生が現地を訪れ、商店街の方と話し合う第一回目のワークショップが昨年10月に行われ、全場は商店街の一角にある「街なかひろば」で、学生15人、商店街、商工会議所、飯塚市の職員など地元の方も15人が集まりました。「一層生自願に輪になって並んでください」と、司会の学生の意外な言葉でワークショップは始まり、そして五つのグループに分かれた後、各自紙に「今欲しい物」をざっくばらんに書いていきます。学生と地元の方はこの日初めて顔を合わせたこともあり、最初はどちらも緊張した面持ちでしたが、この冒頭のやりとりで「気が場が和んでいきました。これはアイスブレイクという手法。初対面の参加者同士の抵抗感をなくし、話し合いをスムーズに行うためのグループワークです。」

学生は続いて「ワールド・カフェ」という話し合いのスタイルで、講座で学んだファシリテーションスキルを実践していきます。ワールド・カフェとは、カフェのようなオープンな空間で相手の意見を尊重しながら会話をを行い、ネットワークを築いていくこと。話し合いを通じて、各自思ったことを書き留めたテーブル上の紙は、後に戻され、キーセンテンスを探るのに役立ちます。このようにアイスブレイクを始め、ワールド・カフェで進んでいく話し合いは徐々に「理想の商店街」へと核心に迫っていき、学生は今回地元の方から吸い上げた問題点を持ち帰り、商店街再生の企画書を作成。第2回の現地ワークショップでプレゼンテーションを行います。本講座をきっかけにした商店街の方の「気付き」が地域活性化へとつながっていくのです。



コラボ・メッセージ



飯塚市役所 経済部 商工観光課 課長 石松 美久 さん

飯塚市の魅力を発信する立場として、学生が持つ飯塚の印象、問題点についての話し合いは大変参考になりました。緊張を解きほぐしながらのグループワークの手法で、商店街の方の本音を聞き出せていたと思います。



飯塚市商店街 連合会 会長 前田 精一 さん

それぞれが危機感を抱える商店街の中で、今一番重要なのが地元でのつながり。学生との意見交換は、新しい視点を気付かせてくれるのはもちろん、商店街の店主同士もコミュニケーションがとれる貴重な場です。

---



人文学部 東アジア地域言語学科 1年次生 岩波 千里 さん

学部学科の授業で扱わない分野を学びたいと思い参加しました。人前で話すことは苦手でしたが、本講座を経て、自分の思っていることを伝えていく積極性ができてきたと実感しています。



ファシリテーター 田坂 逸朗 さん

本講座は「ファシリテーション」「プランニング」「プロデュース」それぞれの力を磨く三つの柱から成っています。学生には自分の中に地域性を見だし、あらゆる分野で活躍できる「現場感覚」を身に付けてほしいです。

個性と個性が融合して、新しい何かをつくる、可能性を開く。  
 そんな福岡大学コラボレーションの魅力を紹介します。

学 × 地 × 政  
**Collaboration F**  
 コラボレーション・エフ  
 —いっしょだから×もっと—



1 2 3 4 ワークショップで、ワールド・カフェという手法により出た意見は最後に各グループでボードにまとめる  
 5 6 学生たちが会場の準備  
 7 8 前日の会場で学生の見聞に村上先生がアドバイス  
 9 長崎街道に沿った飯塚市商店街

○「第14回九州フランス語スピーチコンテスト」で準優勝、ボルドーの地で学ぶ

昨年6月3日(日)、九州日仏学館で行われた同コンテストにおいて、本学大学院(人文科学研究科 仏語学仏文学専攻1年次生)の中村真代さんが準優勝に輝きました。中村さんは18世紀の建造物にみられるマスカロンという装飾をテーマにスピーチを展開、「フランス人も知らないようなボルドーの魅力を発見して、伝えたい」という熱い思いが審査員の大きな評価につながりました。副賞として得た約1カ月の「ボルドー研修」で現地の語学学校に通い、ホームステイも経験した中村さん。この研修を通じて、「将来、フランスと日本の架け橋になれる仕事に就きたい」という思いが芽生えたそうです。



副賞の目録とフランス留学中のテキストを手に  
イタリアやドイツなどから来た留学生と共にボルドーで学ぶ

○伝えること、決して忘れないことが復興につながる  
東日本災害ボランティア活動報告会を開催

昨年10月24日(水)、東日本災害ボランティア「第2次 福岡大学派遣隊」活動報告会を開催しました。  
派遣隊112人(学生102人、教職員10人)は、8月20日(月)から24日(金)までの5日間、昨年に引き続き宮城県(気仙沼市・南三陸町)でボランティア活動を行いました。今回は、仮設住宅の方や小学校の児童保育の子どもたちとのふれあい交流をはじめ、がれき撤去、海岸清掃、建材用の日干しれんがづくりなどに取り組みました。  
「未来へ繋ぐ」をスローガンに、東日本震災の経験を風化させないよう「被災地の方と共に未来に向けて前進していきたい」という想いを込め、未来を担う若者たちが約200人の来場者を前に現地での活動や思い、感じたこと、そして今後について語りました。



報道を通じて被災地での経験を伝える派遣隊員学生代表  
震災当時の様子を表した絵本「つなみのえほん ーはくのふるさとー」を読む来場者

○学園祭  
【七隈祭・雅祭・医学祭】を開催

昨年11月1日(木)から3日(土・祝)まで、本学学園祭である「第57回七隈祭」が開催されました。期間中は晴天に恵まれ、多くの方がキャンパスを訪れ、展示や催し物、模擬店を楽しみました。特に、今回が初めての夜の部では、暗くなったキャンパスに137のテントから溢れるライトの明かりとにぎやかな声。まさに七隈祭のテーマであった「輝〜ひかり〜」が学生一人一人の笑顔からも見ることができました。また地域展示や子どもパークなど、地域の方々と絆を深める企画も数多く行われました。  
2日(金)、3日(土・祝)には商学部第二部の「第14回雅祭」、1日(木)から3日(土・祝)には医学部の「第32回医学祭」も開催され、七隈祭同様の盛り上がりを見せました。



【七隈祭の様子】  
今年も学内外からの多くの来場者でにぎわいました  
【雅祭の様子】  
模擬店のほか、多くの歓声が沸いたステージも  
【医学祭の様子】  
夜には火文字でEnglishの文字が浮かび狂騒な雰囲気  
学生間の交流がより深まるのが学園祭の良いところ

○商学部第二部が「社会人コース」履修生を募集

商学部第二部商学科では、会社員、中間管理職、経営者、公務員、熟年層、リカレント教育希望者等の社会人を対象に、1年間の履修期間でビジネス・マネジメントを体系的に学べる「社会人コース」を開設しています。コース修了者には、学校教育法第105条に基づく履修

証明書(社会人コース修了証)を授与します。1年間で修了できない場合には、1年間の延長も可能です(追加受講料は不要)。平成25年度履修生募集の詳細については、商学部事務室にお問い合わせください。



三島 祥悟 さん  
(福岡大学法科大学院 2008年入学 第5期生)  
中村 有希 さん  
(福岡大学法科大学院 2007年入学 第4期生)

本学法科大学院自習室にて。二人はほぼ毎日ここで勉強に励みました。1年次生の頃は、ここにいる先輩を見てどのくらいの時間をかけて勉強すればいいのかわかりました」と三島さん。

2012年司法試験に合格し、  
法曹としてスタートラインに立つ二人  
福岡大学法科大学院の魅力は、  
教授陣との距離の近さ、と口をそろえる

熱き想いと志を胸に  
法科大学院で猛勉強

司法試験は、法科大学院課程修了者において、修了後5年以内に、3回しか受験することができない狭き門。2012年司法試験では、福岡大学法科大学院から、五人の合格者が誕生しました。その中の二人、三島祥悟さんと中村有希さんに、これまでの歩みと法曹としてのスタートラインに立つ心境を聞きました。

最初に話してくれたのは中村さん。「父の夢だったこともあり、幼い頃から法曹を志し、法学部を経て本法科大学院に進みました。今回が三回目、つまり最後の挑戦だったこともあり、終盤はまったく余裕がなくなりました。不安でリラックスもできず、勉強を続けることが息抜きと自分に言い聞かせて頑張りました。合格が決まった時は、とにかく、ホッとしました。」一方、三島さん



中村さんの合格証書と万年筆。中村さんは2回目の受験失敗の時、気持ちを新たに万年筆を購入。合格した証としてこの万年筆で論文試験に挑みました。

近くで見守ってくれる  
教授陣や先輩、切磋琢磨する仲間が力をくれた

法曹を目指すきっかけ、勉強スタイルも異なる二人ですが、本法科大学院への感謝は同じ。また、本法科大学院の魅力についても実感を感じてくれました。「教授陣との距離が近い」とメリットを挙げたのは中村さん。「一般的な法科大学院は定員約100人、関東では300人というところが多いです。一方、本法科大学院は定員30人、教授陣やスタッフが学生一人一人の状況を把握していて、一般的な質問だけでなく、その人に合ったアドバイスをしてくれます。自習室も7時から24時まで開放されていて、参考書も充実していますし、何より、同じ目標に向かう仲間が常にいることが、モチベーションを高めてくれました。」その言葉にうなずきながら、三島さんはこう付け加



三島 祥悟さん

えました。「本法科大学院全体で『いい法曹人を育てよう』というサポート体制がしっかりできています。教授陣の力がなく、先輩方も密に話を聞かされたので、本法科大学院に入学した時は何も分らない状況でした。教授陣や先輩方、勉強を誘って支えてくれるスタッフのきめ細やかな心遣いが本当にありがたかったです。」  
最後に、これから司法試験を目指す後輩へのエールをお願いしますと、中村さんが代表して「司法試験突破までは長い時間を費やす厳しい道です。だからこそ強い精神力と覚悟を持った人に本法科大学院の最良の環境を活用してほしいと思います。法曹を志したのなら最後まで貫いてほしい。きっと夢は叶うはずですよ」と言葉をくれました。



中村 有希さん

福岡大学法科大学院の  
ここがお薦め

- 1 「教授陣との距離が近い」
- 2 「サポート体制の充実」
- 3 「ヨコだけでなくタテのつながりも強い」  
(教授陣だけでなく先輩後輩のつながりも強い)
- 4 「集中できる自習室」

○ 第11回ホームカミングデー（福岡大学卒業生の集い）を開催



健康で元気に生きるための、生活習慣に関する内藤副学長の基調講演の様子

昨年11月3日(土・祝)、60周年記念館3階のヘリオスホールで「第11回ホームカミングデー」を開催しました。ホームカミングデーは、卒業生との絆を一層深めるために福岡大学と同窓会組織有信会の共催で行っています。卒業生の方々に懐かしい学園祭のにぎわいをぜひ楽しんでいただくと、学園祭の期間に開催しています。

当日は、衛藤卓也学長と川畑鈴子有信会理事長のあいさつに続き、「ピンピン・コロリ」のテーマで内藤正俊副学長による講演が行われました。続いて校友会総務委員長からの歓迎あいさつ、マンドリンクラブによる演奏があり、メールハーモニー部と参加者全員で校歌を斉唱して終了しました。

また、約200人の来場者には、記念品とともに学園祭の模擬店で利用できるクーポン券を呈呈。学園祭一色に染まった広大なキャンパスで、現役学生との世代を超えた交流が行われました。

○ 新しい中央図書館開館後、初めての「選書ツアー」「読書会」を開催

福岡大学図書館では、図書館の積極的利用を促進し、学生生活における情報探査をサポートする「福大生のための図書館活用プログラム」を実施しています。昨年11月6日(火)には、新しい中央図書館の開館後、初めての「選書ツアー」を開催し、学生が新たに約300冊の図書館蔵書を選んでくれました。また、12月6日(木)には、一冊の本を読み、感想を講師と学生で語り合う「読書会」も開催しました。

なお、同プログラムは、「大学図書館における先進的な取り組みの実践事例」(文部科学省研究振興局発行)で「教育活動への直接的関与」として紹介されています。



図書館に置いてほしい本を直接書店で選ぶ「選書ツアー」

一人で読んでいた時には思ひもよらない世界に気付かされる

**詳細はこちら**

- 大学図書館における先進的な取り組みの実践例
  - 一大学の学習・教育・研究活動の質的充実と向上のために
  - [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shuppan/sonota/attach/1314099.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/attach/1314099.htm)(文部科学省ウェブサイト)

本学のサポート体制の詳細は福岡大学図書館のウェブサイトに掲載しています。ぜひ、ご覧ください。

**福大 図書館 検索**

○ 南極で世界初の観測に挑む



南極で活躍予定の無人飛行機「きょうくん(極雲)」



南極上空から持ち帰るエアロゾルのサンプルは研究室の電子顕微鏡で分析する

昨年11月25日(日)、梅本紫衣奈さん(理学研究科地球圏学専攻1年次生)が第54次南極地域観測隊同行者として観測を行うため、南極に向けて出発しました。梅本さんは出発の1年以上前から南極行きに備え、無人航空機システムの開発、大気中に存在する粒子「エアロゾル」の研究に励んできました。南極での観測は、観測装置を搭載した小型無人航空機を気球に結び付けて飛揚、上空10kmで気球と切り離し、採取したエアロゾルサンプルとともに自動帰還させるという世界初の試みです。

梅本さんは未知の世界を前に「観測隊員・同行者93人のうち女性は8人。とにかく観測を成功させます。夏の短い観測期間である上、気候条件の良い時にしかできない観測ですが、タイミングを逃さずやり逃げたいと思っています。また、さまざまな道のプロの方と接する貴重な機会でもあります。4か月を有意義なものにしたいです」と声を弾ませていました。

○ 現代社会に内在する問題に向き合い、論じる—第23回懸賞論文の表彰式を開催—

昨年11月26日(月)、第23回懸賞論文の表彰式を行いました。懸賞論文は「学生の持つ考えを自由な発想で論文にまとめ、それを広く発表する機会を与えること」を目的とし、本学学生を対象に毎年開催しています。今回のテーマは、「現代を考える」—ネット社会の功罪—。全11編の応募の中から馬見新佳那子さん(薬学部6年次生)の「インターネットと薬販売・医薬品はインターネットで販売するのに向いているか」が優秀作に、そのほか4編が佳作に選ばれ、大学から賞状と報奨金を贈りました。表彰に際し、小野寺一浩学生部長から「今後もさらに見識を深め、より一層「自分の考え」を主張できるように成長してほしい」と激励の言葉がありました。

○ 福岡大学病院新診療棟が平成24年度(第25回)福岡市都市景観賞(建築部門)を受賞

2011年1月に開院した福岡大学病院新診療棟が平成24年度(第25回)福岡市都市景観賞(建築部門)を受賞しました。この建物は病院新館、福大プラザ、福大メディカルホールから成り、アトリウムは全面ガラスの三層吹き抜け空間となっています。

柔らかな自然光と眺望を院内に取り入れ、地下鉄の改札口から地下通路で直結するなど、当院の理念である「あたたかい医療」に配慮した点などが受賞理由となっています。

○ 全国レベルの大会で活躍した学友を讃えて課外活動の成績優秀者を表彰

昨年10月1日(月)、60周年記念館ヘリオスホールで、平成24年度上期の課外教育活動成績優秀者の表彰式を行いました。

課外活動において優れた成績を収めた19人および1団体に対し、衛藤卓也学長から表彰状が贈られました。



個人(全国大会3位以上)

学友会名	氏名(学部および年次)	大会名および種目	結果
陸上競技部	高木 華子さん(薬学部4年次生)	第81回全日本学生陸上競技対校選手権大会 女子走幅跳	第2位
		2012日本学生陸上競技個人選手権大会 女子走幅跳	第3位
	岡部 優真さん(スポーツ科学部4年次生)	第96回日本陸上競技選手権大会 男子三段跳	優勝
		2012日本学生陸上競技個人選手権大会 男子三段跳	優勝(2年連続)
		第81回全日本学生陸上競技対校選手権大会 男子三段跳	第2位
		第4回アジアオールスター選手権大会 男子三段跳	第3位
	下野 伸一郎さん(スポーツ科学部4年次生)	2012日本学生陸上競技個人選手権大会 男子走幅跳	第2位
		第81回全日本学生陸上競技対校選手権大会 男子走幅跳	第2位
	中西 拓郎さん(スポーツ科学部4年次生)	2012日本学生陸上競技個人選手権大会 男子5000m	優勝(4年連続)
	岩本 航さん(商学部3年次生)	2012日本学生陸上競技個人選手権大会 男子走高跳	優勝
齋藤 真希さん(スポーツ科学部3年次生)	第30回ニューカレドニア国際ハーフマラソン	第2位	
川端 麻友さん(スポーツ科学部1年次生)	2012日本学生陸上競技個人選手権大会 女子3000m障害	第3位	
上妻 昇太さん(スポーツ科学部1年次生)	2012日本学生陸上競技個人選手権大会 男子800m	第2位	
	第15回アジアジュニア選手権大会 男子800m	第3位	
記野 友晴さん(スポーツ健康科学研究科1年次生)	第81回全日本学生陸上競技対校選手権大会 男子400mハードル	第3位	
剣道部	有馬 七純さん(スポーツ科学部2年次生)	第46回全日本女子学生剣道選手権大会	第3位
弓道部	松高 広明さん(工学部4年次生)	第60回全日本学生弓道選手権大会 男子個人戦	優勝
モーターボート・水上スキー部	宮原 麻耶さん(経済学部3年次生)	2012全日本学生水上スキーチャンピオンシリーズ(Game1) 女子スラローム部門	第2位
	藤田 侑希さん(工学部2年次生)	第57回桂宮杯全日本学生水上スキー選手権大会 男子ジャンプ部門	第3位
レスリング部	川畑 裕弥さん(スポーツ科学部2年次生)	2012年度全日本ジュニアレスリング選手権大会 フリースタイル50kg級	優勝
新体操競技部	廣庭 捷平さん(スポーツ科学部4年次生)	第64回全日本学生新体操選手権大会 男子種目別 クラブ部門	第2位
書道部	福徳 亮さん(薬学部6年次生)	第17回全日本高校・大学書道展	大賞(4年連続)
		第29回読書書法展	秀逸
	浅田 浩輝さん(経済学部4年次生)	第17回全日本高校・大学書道展	大賞
なぎなた同好会	大岡 響さん(スポーツ科学部3年次生)	第51回全日本学生なぎなた選手権大会 演技競技(大岡・田中組)	優勝
		第51回全日本学生なぎなた選手権大会 試合競技・個人の部	第2位
	田中 利江さん(スポーツ科学部2年次生)	第51回全日本学生なぎなた選手権大会 演技競技(大岡・田中組)	優勝

団体

学友会名	大会名および種目	結果
モーターボート・水上スキー部	第57回桂宮杯全日本学生水上スキー選手権大会 女子団体	第3位

○ 「釜山・福岡 大学生広報大使」の本学学生2人が釜山へ

釜山市と福岡市による観光キャンペーン「釜山・福岡アジアゲートウェイ事業」の一環で、両市の交流促進と情報発信を担う大使に本学から村山詩歩さん(人文学部東アジア地域言語学科4年次生)と村岡美紀さん(同英語学科3年次生)の2人が選ばれました。

昨年10月には、福岡市から全5人の大学生大使が釜山市を訪問。釜山側の大使との交流を重ね、現地の魅力を紹介するPR映像を制作しました。「撮影で釜山各地を巡る中で、地元の方の温かい人柄に触れ、事業のテーマである「情」を一身に感じる事ができました」と村山さん。また、村岡さんは「映像作りではモデルを担当させていただきました。帰国後は普段の大学生活でもより積極的に取り組む意識を持っています」と体験の成果を語りました。



「取組の多い体験でした」と語る村山詩歩さん(右)と村岡美紀さん(左) 釜山各地で現地の大使と撮影活動を行った



# Archive

歳月の頁を開けて

PAGE4 夢に向かってかける



1981年1月 福岡大学は第12回「全日本大学駅伝」で2度目の日本一に輝く(伊勢神宮前)



1982年1月 第13回同大会で2年連続3度目の日本一に

ゴールは遥かな彼方にあつた。  
掲げた目標は霞むような高みにあつた。  
若き疾走者たちは、熱く奮えた。

自己との葛藤、辛い錬磨を乗り越え、  
今、延々と続く坂路の険しさを堪え、  
友が自分を信じて待つ中継所まで

息を切らし、喉を鳴らし、呻きを漏らし  
それでも、この襷を繋ぐまで。

皆でゴールにたどりつくまで。

鍛えた心と体は、決して怯まなかつた。

ゴールはいつも遥かな彼方にある。

夢に向かって、若者たちは

全身で、全力で、駆けていく。